

袋井市文化財保存活用地域計画

令和4年12月

静岡県袋井市

目 次

序 章	1
1 文化財保存活用地域計画作成の目的	
2 計画の位置づけ	
3 計画期間	
4 計画の進捗管理と自己評価の方法	
5 計画作成の経過と検討体制	
第1章 袋井市の概要	7
1 自然的・地理的環境	
2 社会的状況	
3 歴史的背景	
第2章 袋井市の文化財の概要と特徴	37
1 指定等文化財の概要と特徴	
2 未指定文化財の概要と特徴	
第3章 袋井市の歴史文化の特徴	51
1 川がもたらす豊かな恵みと歴史文化	
2 「境の地」における往来が生み出す歴史文化	
3 秋葉信仰と街道の歴史文化	
4 自然災害への備えと復興の歴史	
第4章 袋井市の文化財の把握調査	57
1 既存の文化財の把握調査の概要	
2 文化財の把握調査の課題	
3 文化財の把握調査実施の方針・措置	
第5章 文化財の保存と活用に関する基本理念と基本的な方向性	65
1 袋井市の文化財の保存・活用の基本理念	
2 基本的な方向性	
第6章 文化財の保存・活用に関する現状と課題	68
1 調査研究に関する現状・課題	
2 保存・継承に関する現状・課題	
3 文化財の活用に関する現状・課題	

- 4 文化財の保存と活用に関する方針
- 5 文化財の保存と活用に関する措置

第7章 関連文化財群 81

- 1 関連文化財群の定義
- 2 本市における関連文化財群
 - テーマ1 河川に育まれた平野の歴史と人々の祈り
 - テーマ2 道がもたらした人の往来と文化
 - テーマ3 火伏せの神の信仰と地域の連帯

第8章 文化財の防災・防犯 99

- 1 文化財の防災・防犯に関する課題
- 2 文化財の防災・防犯に関する方針
- 3 文化財の防災・防犯に関する措置

第9章 文化財の保存と活用の推進体制 105

- 1 本市の体制

序 章

1 文化財保存活用地域計画作成の目的

文化財は、地域の人たちの生活、営みから生まれ、受け継がれてきたもので、まさに、地域の人たちが積み重ねてきた歴史の証しです。単なる「もの・こと」ではなく、その時々
の暮らし、文化、風土、人々の思いを現代の私たちに伝えてくれるとともに、将来の方向
性を示す道標になりうるものです。

しかしながら、人口減少社会を迎え、少子高齢化、核家族化の進行などに伴い、地域の
コミュニティの力が減退してきていることは否めず、特に地方では、人口の流出により、
社会の担い手不足が深刻化し、D X(註1)などによる利便性と経済的成長を追求する社会の
急速な変化に対して、文化財を守り伝えることが難しくなっています。中には、消失、散
逸などのほか、後継者がいないため継承できない事態も見られ、次代に伝える役割を果た
すことに大きな課題を抱えています。

文化財や歴史文化は、郷土が生み、先人が育んできた貴重な宝で、時代が変わっても守
り、その時々に応じた形で育て、未来の地域社会に渡すことが必要です。

『袋井市文化財保存活用地域計画』は、市民一人ひとりが、文化財の価値をあらためて
認識し、地域総がかりで守り、文化財とそれを取りまく環境を一体のものとして、コミュ
ニティの再生や観光、まちづくりに活用し、これにより、次代へ継承していくことを目的
に作成したものです。

註1 「企業がビジネス環境の激しい変化に対応し、データとデジタル技術を活用して、顧客や社
会のニーズを基に、製品やサービス、ビジネスモデルを変革するとともに、業務そのものや、
組織、プロセス、企業文化・風土を変革し、競争上の優位性を確立すること。」

「D X推進ガイドライン」 平成30年(2018年) 経済産業省

文化財と歴史文化

文化財の定義については、文化審議会文化財分科会企画調査会報告(平成19年10月)において「指定
等の措置がとられているか否かにかかわらず、歴史上または芸術上等価値が高いあるいは人々の生活
の理解のために必要なすべての文化的所産」とされています。

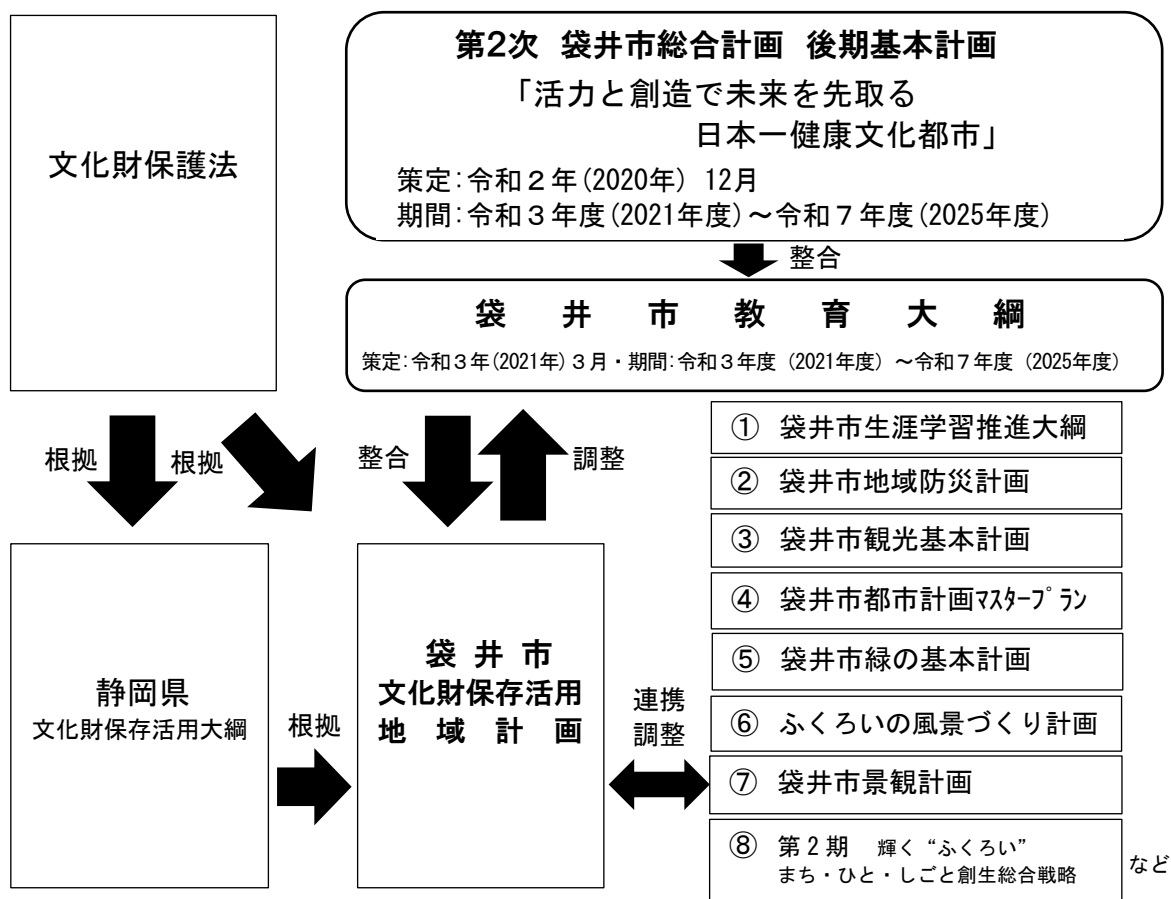
本計画の対象とする「文化財」とは、文化財保護法第2条に規定される有形文化財・無形文化財・
民俗文化財・記念物・文化的景観・伝統的建造物群の6つの類型(この中には国や地方公共団体に指定
等されたものだけでなく、何ら行政による保護措置が図られていない、いわゆる未指定文化財も含む)
に加え、埋蔵文化財や文化財を次世代へ継承する上で欠かせない文化財の材料製作・修理等の伝統的
な保存技術についても、幅広く対象としています。

また、文化財類型に当てはまらない、地域で語り継がれてきた伝承(昔話)などについても、本計画
では文化財として扱うこととします。

なお、歴史文化については以下の概念を用います。「文化財が置かれている自然環境や周囲の景観、
文化財を支える人々の活動」などが一体となって作り出す環境の総体を歴史文化と定義します。(文
化庁『「歴史文化基本構想」策定技術指針』平成24年(2012年)2月)

2 計画の位置づけ

本計画は、文化財保護法第183条の3で規定された計画であり、静岡県が策定した『静岡県文化財保存活用大綱』〔令和2年(2020年)3月〕を踏まえて作成するとともに、本市の最上位計画である「第2次総合計画後期基本計画」〔令和2年(2020年)12月〕及び「袋井市教育大綱」〔令和3年(2021年)〕、更には、次に掲げる分野別の各計画と整合が図られるように作成しています。



(1) 上位の計画

ア 第2次 袋井市総合計画 後期基本計画

〔令和2年(2020年)12月 策定、期間: 令和3年度(2021年度)～7年度(2025年度)〕

第2次袋井市総合計画は、時代の潮流を踏まえながら、未来に向けたまちづくりを着実にを行うため、「まちづくりの羅針盤」、「協働の行動指針」、「進行管理のものさし」という3つの役割を掲げています。

イ 袋井市教育大綱

〔令和3年(2021年)3月 策定、期間: 令和3年度(2021年度)～令和7年度(2025年度)〕

「心ゆたかな人づくり」の基本理念のもと、「学びたい時に、誰もが学ぶことができる環境を整える」との基本方針の中で、生涯にわたって学ぶことができるよう、良好な学びの環境を整えることの必要性を示しています。

袋井市の最上位計画である『第2次 袋井市総合計画 後期基本計画』令和2年(2020年)12月策定、計画期間令和3年度(2021年度)～令和7年度(2025年度)と、『袋井市教育大綱』令和3年(2021年)策定と整合を図り、次に掲げる分野別の関連計画と連携をした計画としました。

(2) 分野別の計画(計画における文化財などの位置付け)

① 袋井市生涯学習推進大綱

〔平成19年(2007年)策定、期間なし〕

「心ゆたかな人づくり」の基本理念のもと、「心ゆたかな人」をはぐくむために、家庭内や地域の取組として、日本文化を次世代へ継承することや、地域固有の伝統や民俗文化を次世代に継承することが示されています。

② 袋井市地域防災計画

〔令和4年(2022年)3月策定、期間なし〕

一般対策編では、市内における過去の大きな災害履歴を列記し、予想される災害と地域を想定しています。また、防災のための調査研究の実施方針の中では、古文書などによる過去の災害史を通じて、災害の種類などの調査検討を行うことが示されています。また、災害史の検討により、発生のメカニズムの理解に繋げることなども示されています。

地震対策編では、文化財に対する防災対策として、文化財建造物、文化財所蔵施設の所有者等は、耐震性の向上並びに、地震による人的な被害を防止するための安全性の確保に努めるために必要な対策を講ずるものとしています。

資料編では、東海道五十三次にゆかりの市町とともに、「東海道五十三次市区町災害時相互応援に関する協定」による相互の救援協力が示されています。

③ 袋井市観光基本計画

〔令和3年(2021年)策定、期間：令和3年度(2021年度)～令和7年度(2025年度)〕

「心もからだもちもほっとする「健康文化観光」ふくろい」という目指す姿を掲げ、地域ブランドの創出の中で、遠州三山(えんしゅうさんざん かすいさい ゆさんじ ぞんえいじ)をはじめとする寺社仏閣のイメージの統一や物語性の付与により袋井ブランドを高めていくことを示しています。

④ 袋井市都市計画マスタープラン

〔平成30年(2018年)3月策定、期間：平成27年度(2015年度)～平成47年度(2035年度)〕

「住みたくなる 住んで良かったと実感できるまち 活力あふれる ふるさとふくろい」の基本理念のもと、自然・歴史文化が調和する都市づくりを示しています。

⑤ 袋井市緑の基本計画

〔平成22年(2010年)3月、策定：期間平成22年度(2010年度)～平成37年度(2025年度)〕

「みんなで育てる緑豊かな健康文化都市 ふくろい」という基本目標を設定し、歴

史的・文化的な景観を保全・活用と、市民の郷土への誇りの醸成を示しています。

⑥ ふくろいの風景づくり計画

〔令和元年(平成31年、2019年)4月策定、期間なし〕

景観形成の基本目標に「緑と水と歴史とまち並みが調和する美しい健康文化都市ふくろい」を定め、指定文化財や寺社、旧東海道と袋井宿、彫刻・モニュメントの景観など、歴史的・文化的な景観の保全と創出を目指すことを示しています。

⑦ 袋井市都市景観計画

〔令和元年(2019年)9月策定、期間なし〕

「緑と水と歴史とまち並みが調和する美しい健康文化都市ふくろい」の基本目標のもと、袋井固有の郷土の景観の保全を目指すことを示しています。

⑧ 第2期 輝く“ふくろい”まち・ひと・しごと創生総合戦略

〔令和2年(2020年)3月策定、期間：令和2(2020年)～令和6(2024年)年度〕

挑戦目標として「「ふくろい人」ひとづくりへの挑戦」を掲げる中で、歴史資料を活かした郷土の魅力学習事業の推進や、地域文化・社会体験活動等を通じたふるさと教育の推進などを示しています。

3 計画期間

本計画の期間は、袋井市総合計画との整合性を考慮し、令和5年度(2023年度)から令和12年度(2030年度)の8年間とします。8年間で前期(2年)、中期(3年)、後期(3年)に区分し、事業を実施します。

年 度	令和3 (2021)	令和4 (2022)	令和5 (2023)	令和6 (2024)	令和7 (2025)	令和8 (2026)	令和9 (2027)	令和10 (2028)	令和11 (2029)	令和12 (2030)
文化財保活用 地域計画										
総合計画										
教育大綱										

4 計画の進捗管理と自己評価の方法

なお、新たな総合計画等が策定された場合を想定し、令和8年度(2026年度)を目途に中間評価(自己評価)を行ない、進捗状況を点検・確認します。また、文化財の保存や活用を取り巻く環境が大きく変化した場合には、必要に応じて、計画を見直すこととします。

地域計画を見直しする場合は、文化財保護法第183条の4に基づき国の変更認定を受けるものとします。なお、文部科学省令に定める「計画期間の変更」「市町村の区域内に存する文化財の保存に影響を及ぼすおそれのある変更」「文化財保存活用地域計画の実施に支障が生じるおそれのある変更」以外の軽微な変更については、その内容について静岡県を通じて文化庁に報告を行うこととします。

5 計画作成の経過と検討体制

(1) 作成の経過

当市では、袋井市文化財保存活用地域計画作成に際し、令和2年(2020年)6月30日に袋井市文化財保存活用地域計画策定協議会設置要綱を定め(教育委員会告示第12号)、9名の協議会委員による協議会を設置し、意見聴取を行いました。

令和2年(2020年)10月21日の第1回協議会以降、計6回の協議会を開催するとともに、コミュニティセンター連絡会議や、自治会連合会長会議において計画作成の概要説明と文化財リスト作成に関する協力依頼を行いました。

また、パブリックコメントを実施し、市民から幅広い意見を求め、計画作成に反映させました。

年	開催日	内 容
令和2年 (2020年)	10月21日	第1回袋井市文化財保存活用地域計画策定協議会 計画の概要、市の文化財における現状・課題・特性、市が取り組む方向性について意見聴取
	12月24日	袋井市文化財保護審議会 計画の報告及び意見聴取
令和3年 (2021年)	3月19日	第2回袋井市文化財保存活用地域計画策定協議会 計画における「文化財」の位置付けと範囲、市を特徴付ける歴史文化の特徴と区分について意見聴取
	3月24日	袋井市文化財保護審議会 計画の報告及び意見聴取
	8月25日	第3回袋井市文化財保存活用地域計画策定協議会 計画における地域設定、「広義の文化財」についてについて意見聴取
	10月21日	第3回コミュニティセンター連絡会議にて、計画作成の概要説明と文化財リスト作成の協力依頼
	11月12日	第6回自治会連合会長会議にて、計画作成の概要説明と文化財リスト作成の協力依頼
	12月22日	第4回袋井市文化財保存活用地域計画策定協議会 地域設定内の文化財の特徴、将来像、方向性について意見聴取
令和4年 (2022年)	2月15日	第5回袋井市文化財保存活用地域計画策定協議会 保存と活用の将来像、方針と措置について意見聴取
	5月11日～ 6月9日	市内4ヶ所の施設とホームページにおいてパブリックコメントを実施し、意見を聴取した。
	6月22日	第6回袋井市文化財保存活用地域計画策定協議会 最終案の確認と意見聴取
	8月4日	袋井市文化財保護審議会 計画最終案の報告と意見聴取

(2) 検討体制

袋井市文化財保存活用地域計画策定協議会

区 分	氏 名	役 職 等	備考
建 築	長尾亜子	静岡理工科大学	会長
考古学	松本一男	大日本報徳社・(市文化財保護審議会)	副会長
関係団体	山本正昭	久努の松並木愛護会・(自治連合会長)	
関係団体	安間和由	久野城址保存会・(コミュニティセンター館長)	
観 光	小幡浩一	J R 東海(東海旅客鉄道株式会社)袋井駅長 (※令和2年度:細貝雅裕)	
建 築	倉田裕司	静岡県伝統建築技術協会	
商 工	館石京子	浅羽町商工会	
所有者	廣岡典子	岩松寺	
静岡県	小坂美雪	静岡県文化財課長(※令和2年度:永井雅也・令和3年度:三保広真)	

袋井市文化財保護審議会

区 分	氏 名	役 職 等	備考
城 郭	加藤理文	市立浅羽中学校・日本城郭研究会理事	会長
古文書	荻原圭子	元袋井市史編纂室	副会長
考古学	松本一男	大日本報徳社・(市文化財保存活用地域計画策定協議会)	
建 築	新妻淳子	静岡文化芸術大学	
美 術	椿原靖弘	フェルケール博物館	
団 体	大西弘子	久野城址保存会	
所有者	鈴木快法	油山寺	
美 術	島口直弥	浜松市美術館	
団 体	鈴木仁美	浅羽史談会	
歴 史	北島恵介	元森町教育委員会・森町歴史伝統文化保存会会長	
生涯学習	村松里絵	元市生涯学習課	
建 築	土屋和男	常葉大学	
民 俗	川口円子	静岡産業大学総合研究所客員研究員	

第1章 袋井市の概要

1 自然的・地理的環境

(1) 位置

本市は、静岡県西部に位置しています。この西部地域は、奈良時代に遡る国名では「遠江」^{とどうみ}に該当します。現代においては、「遠州」^{えんしゅう}と呼び、西から湖西市・浜松市・磐田市・袋井市・森町・掛川市・菊川市・御前崎市・牧之原市の8市1町を総称する言葉として定着しており、遠州地域において当市はちょうど中央に位置しています。

市境は東を掛川市、西を磐田市、北を森町がそれぞれ接し、南の沿岸部は遠州灘^{えんしゅうなだ}に接しています。



袋井市の位置図

(2) 交通

本市は、東海道新幹線・東海道本線・東名高速道路・国道1号線・国道150号線など主要交通路が横断するとともに、北隣に位置する森町^{もりまち}を横断する新東名高速道路のインターチェンジなどへのアクセスも良く、鉄道・道路網の大動脈が集中する環境に立地しており、東京へ240km、大阪へは320kmと交通条件に大変恵まれています。

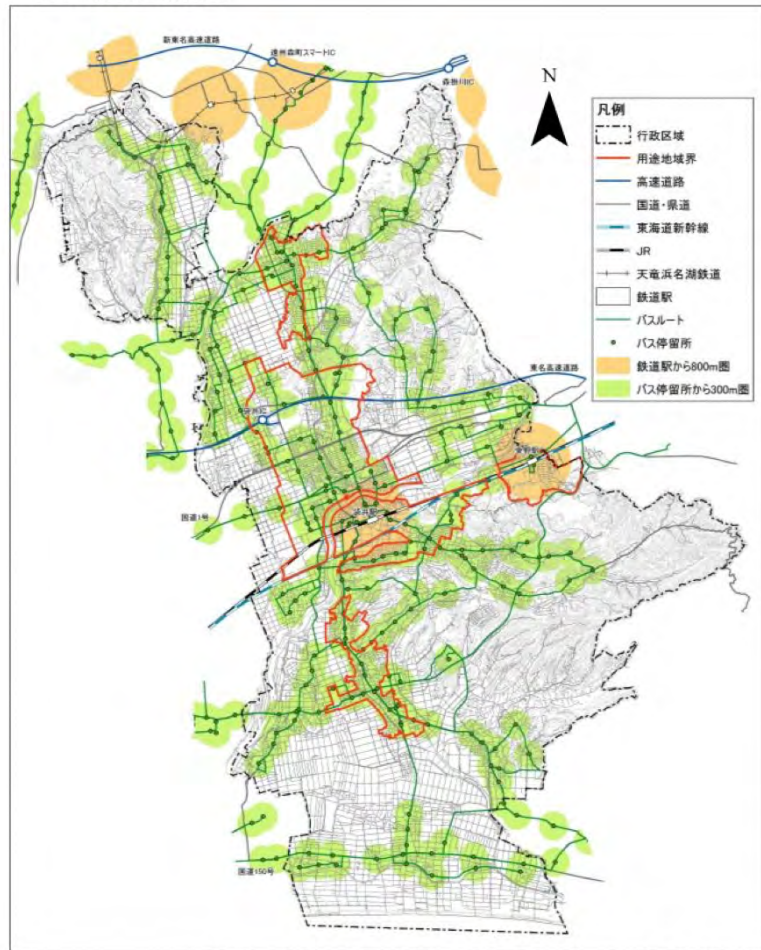
本市には、J R 東海道本線が市中心部を横断し、袋井駅と愛野駅が立地しています。市域の北端に天竜浜名湖鉄道が運行していますが、市内に駅はありません。

袋井駅は朝夕のピーク時は5本/時間程度が運行しており、主に浜松市、磐田市等への通勤・通学に利用されています。

路線バスとしては、秋葉バスサービス株式会社が市内5路線(秋葉線、秋葉中遠線、磐田線、今井線)を運行しており、特に「秋葉中遠線と秋葉線」は、市域中央を縦断し、1日30本以上の運行頻度があることから本市にとって基幹的な役割を果たしています。また、市では、地域協働運行バス等も運行しています。

■公共交通網図

『袋井市都市計画マスタープラン』



(3) 地形

本市は、東西約15km、南北約17kmにわたり、面積は108.33km²で、県総面積の1.4%を占めています。豊かに広がる田園地帯と美しい茶畑、さらには太田川や原野谷川、南には遠州灘と、自然環境にも恵まれています。

市域の大半を占める平地は、遠州海岸平野と呼ばれ、現在では多くの市民が暮らす住宅地が形成されています。縄文時代の海進の水域が後の時代に陸地化した場所です。一見して平坦に見える平野部では、平野の中程を南流する太田川・原野谷川の川筋は、河川から離れた場所よりやや高く、台地の裾などの低地には後背湿地が形成されています。

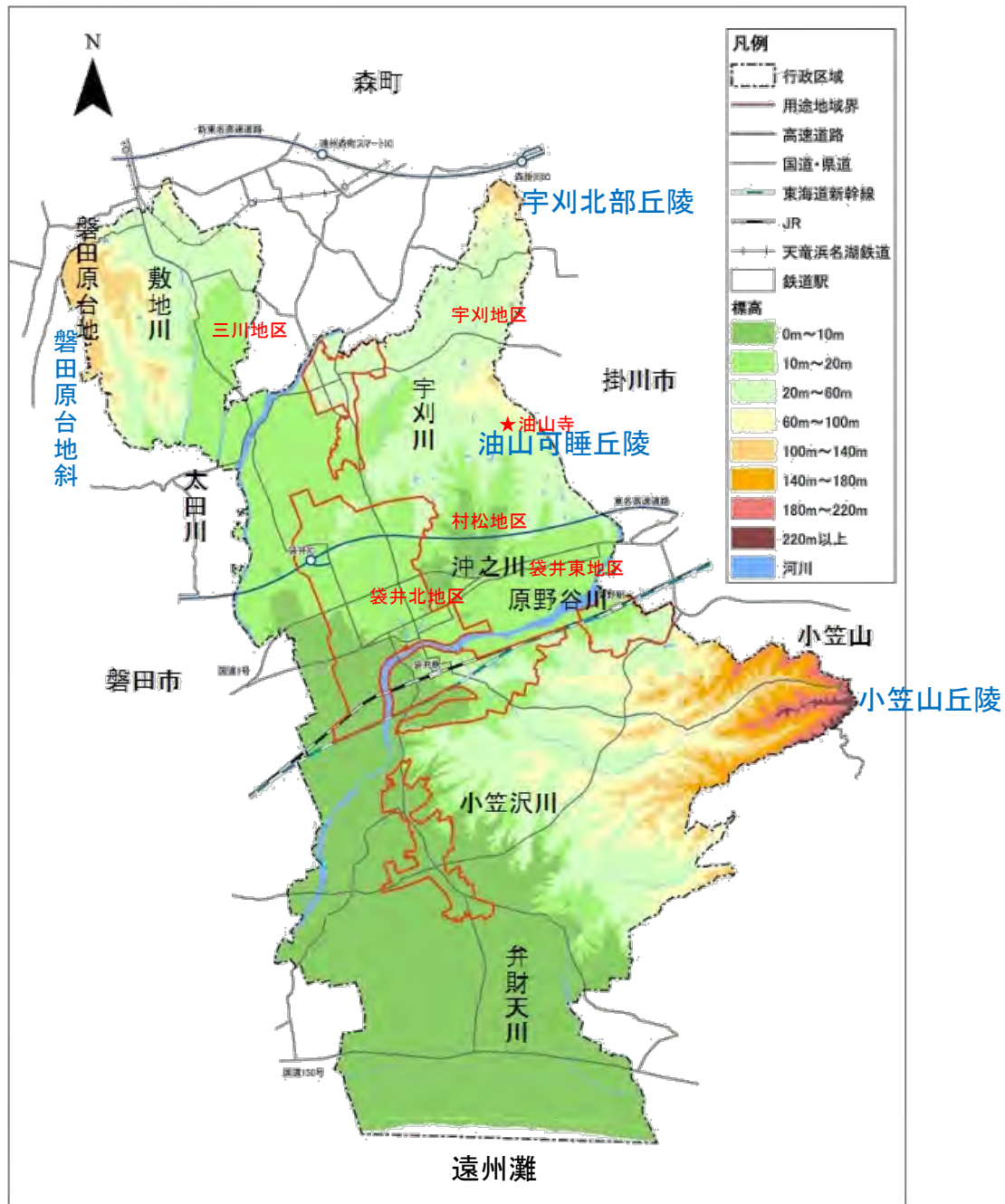
令和3年現在の主な地目別面積は、宅地が18.4% (19.91km²)、農地が35.5% (38.45 km²)、山林・原野が19.1% (20.65km²) であり、極めて平坦な地域が広がり、土地利用もしやすい条件が整っています。

(4) 地質

市内を貫流する太田川・原野谷川の2河川の流域の多くは沖積層の低地が占めます。また、丘陵地は低く、洪積台地・河岸段丘はごくわずかで、多くの人々の活動は、現代的に活動しやすい平地で見られます。丘陵の地質はローム砂礫層となっており、一部に粘土、

砂質粘土層を含む洪積層のため、今日の土木機械を使えば平坦化も容易なものです。袋井東、袋井北地区の小高い丘と、三川地区のうち磐田原台地に接続する地域も同様な洪積層となっていますが、村松地区の油山寺付近は第3紀鮮新統の曾我層群、これに接続する宇刈地区は同じ系統の掛川層群となっています。

■袋井市の地形



資料：平成 24 年度 都市計画基礎調査

また、本市南部の沖積低地の成立は、太田川・原野谷川が形成した三角州に由来をもち天竜川左岸地域海岸付近に広がる遠州海岸平野とも呼ばれています。およそ7万年前に始まって、1万年前に終わりを見せた最終氷期の最も寒い時期に、海面は現在より約140mから150m程の低下を見せたため、太田川・原野谷川は深い谷を作りました。

その後、氷期末の海面上昇で日本列島は大陸と繋がっていた陸橋が次々と失われ、大

陸から切り離されて現在の姿になりました。太田川・原野谷川が形成した谷は、この海面上昇により海水が入り込み、溺れ谷と呼ばれる地形となりました。さらに、湾口部には天竜川から東方へ流れ出た砂が堆積して砂州を形成し、外海と徐々に切り離されて潟となり、淡水化が進み、長期間冠水状態のため生み出された有機質土などが混在しながら堆積していきました。市南部の平野部は、この時から堆積した粘質土が基盤となっています。

(5) 植生

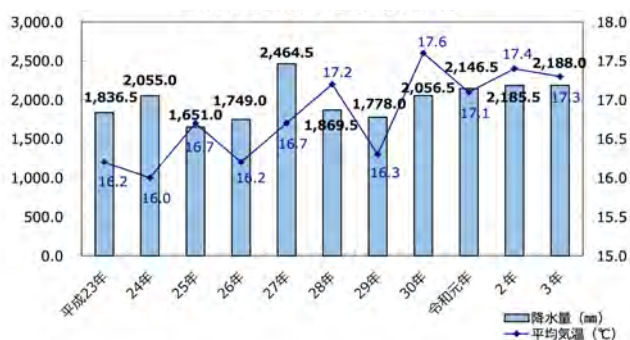
本市の山林原野は、小笠山丘陵、油山可睡丘陵、宇刈北部丘陵、三川東部と北部の丘陵、磐田原台地斜面で、丘陵斜面は照葉樹林と茶園、ミカン畑が広がり、沖積低地では水田雑草群落となっています。山林は、天然林が約50%、残りが人工林となり、気候温暖な地域であるため、天然林はシイやカシなどのような常緑広葉樹林で、コナラやクリのような落葉広葉樹が混生しています。常緑樹と落葉樹の分布に大きな規則性が見られないのは、市内の丘陵が低平で、夏も冬も一様に季節風にあたるという地域差の少ない地形気候によるものと考えられます。

また、小笠山丘陵や磐田原台地斜面など砂礫層地や砂層地にアカマツが見られます。この地域は土地がやせているうえに、冬季の強い季節風の影響もあり、アカマツから広葉樹に遷移ができにくいためと考えられます。人工林ではスギやヒノキ、クロマツが植栽されています。スギやヒノキは丘陵地の肥沃な所に多く、クロマツは丘陵地の日当たりのよい斜面や尾根に多く見られます。社寺林や屋敷林は常緑広葉樹とスギ、ヒノキが目立ちます。また、生垣には静岡県西部独特のマキが植えられ、『袋井市の木』となっています。

(6) 気候

本市は、太平洋に面し温暖多雨の太平洋岸式気候です。夏は南からの風のため、高温多湿で雨の日が多いです。冬は西からの季節風のため、低温で乾燥した晴れの日が多く、この地域独特の「遠州の空っ風」と呼ばれる強い西風の寒風が吹き、実際の気温より寒く感じられます。また、全国の中でも日照時間が長い地域であり、年平均気温は16度～17度と1年を通じて温暖な環境です。

平均気温と降水量の推移



資料：袋井市の統計2022

(7) 市の変遷

旧袋井市は、明治22年(1889年)4月1日の市町村制施行に伴い誕生した山名町を、明治42年(1909年)に袋井町と改称し、昭和3年(1928年)から笠西村・久努西村・今井村・三川村・田原村の一部、笠原村の一部と順次合併し、昭和33年(1958年)11月3日に市制を施行

明治 10 年	明治 22 年	明治 30~40 年	昭和 3 年	昭和 23 年	昭和 27 年	昭和 29~31 年	昭和 38 年	平成 17 年
宇刈村	宇刈村					昭和 30.1.1 山梨町	昭和 38.1.1	
春岡村								
上山梨村	山梨村	明治 31.3.31 山梨町						
山科村								
沖山梨村								
萱間村	三川村					昭和 30.3.31		
山田村								
大谷村								
川会村								
見取村								
友永村								
深見村	今井村					昭和 29.11.3		
太田村								
徳光村								
横井村								
小山村								
延久村								
村松村	久努村				昭和 27.10.10			
国本村								
広岡村								
山科村	久努西村			昭和 23.9.1				
堀越村								
久能村								
鷺巣村								
山名町	山名町	明治 42.1.1 袋井町	昭和 3.12.15 袋井町		昭和 31.10.1 袋井市			
広岡村								
赤尾村	笠西村							
高部村								
神長村								
愛野村								
豊沢村								
田原村	田原村					昭和 31.9.1		
岡崎村	笠原村					昭和 31.9.30		
山崎村	上浅羽村					昭和 30.3.31 浅羽村 ↓ 昭和 31.10.1 浅羽町	平成 17.4.1 袋井市	
諸井村								
浅羽村								
浅名村								
豊住村								
浅岡村	西浅羽村							
長溝村								
富里村								
一色村								
一之池新田村								
中村	東浅羽村							
新堀村								
梅山村								
松原村								
初越村	幸浦村							
湊村								
太郎助村								
西同笠村								
寄木村								

袋井市の変遷

しました。その後、昭和38年(1963年)1月1日に、山梨町と合併しました。

旧浅羽町は、明治22年(1889年)年月1日の市町村制の施行に伴い誕生した上浅羽村・西浅羽村・東浅羽村・幸浦村が昭和30年(1955年)3月31日に合併して浅羽村となり、翌昭和31年(1956年)10月1日に町制を施行しました。

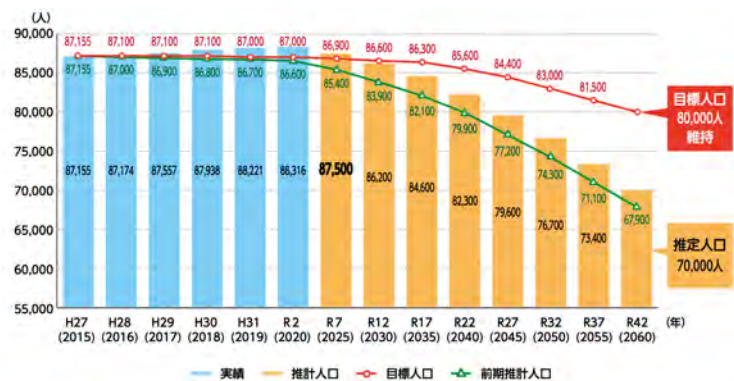
旧袋井市と旧浅羽町は、JR袋井駅を中心に南北に貫く生活圈・経済圏が形成されているとともに、ごみ処理や消防業務など積極的な連携の中で広域行政を展開しており、文化的・歴史的にもつながりが深い地域でした。

その後、袋井市と浅羽町では1市1町の合併を目指すこととし、平成16年(2004年)9月30日に旧袋井市・旧浅羽町合併協議会を設置しました。平成17年(2005年)4月1日、現在の袋井市が誕生しました。

2 社会的状況

(1) 人口の推移

令和4年6月1日現在、袋井市の人口は、88,299人です。高齢化率は、24.4%と県の高齢化率29.5%を5.1ポイント下回っています。また、平均年齢も、44.8歳と県の平均年齢48.4歳より3.6歳若く、県下でも指折りの「若い」まちと言えます。



資料：第2次総合計画後期基本計画

本市の直近5か年平均(平成26年(2014年)～平成30年(2018年))における合計特殊出生率は1.70と、全国平均の1.43や静岡県平均の1.52よりも高いものの、人口を維持するための人口置換水準2.07よりも低い状況であり、今後、子どもの出生数や合計特殊出生率が現状のまま推移した場合や子育て世代(30～49歳)の転出超過(転出が転入を上回る状態)が解消されない場合、5年後の令和7年(2025年、第2次総合計画目標年次)には、人口が87,500人、40年後の令和42年には70,000人となり、現在から約18,300人余、約2割減る見込みです。

(2) 産業

平成27年国勢調査による袋井市の就業人口は、第1次産業(農業ほか)が4.3%、第2次産業(製造業ほか)が40.3%、第3次産業(卸売業ほか)が52.6%です。産業大分類別の人口割合では、製造業が34.3%、卸売業、小売業が12.5%、医療、福祉が8.7%となっています。

ア 農業

農業を見ると、温暖多雨の気候や長い日照時間を活かし、温室メロン、茶、米を中心に、県下有数の農業生産地域となっています。温室メロンは「クラウンメロン」のブランドを確立して、全国から高い評価を受けており、産出額は全国トップシェアを誇ります。お茶の品種は「やぶきた」で、深蒸し茶を中心に緑茶が生産されています。米は、

令和3年度の収穫量は6,850t(「農林水産統計」)で、県内有数の米産地です。

イ 工業

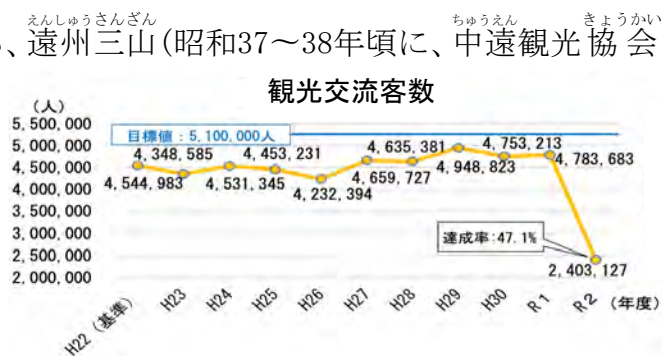
工業については、周辺地域と比較して輸送機械器具など特定業種への依存度が低く、比較的バランスのとれた業種構造となっています。

ウ 商業

商業については、近隣市の郊外型大規模店舗の出店により買物客が減少しているのが現状ですが、魅力ある個店づくり、商店街のイベントや空き店舗の活用、情報発信の強化など、市内商店の魅力発信に努めています。

エ 観光

観光については、観光交流客数のうち、遠州三山(昭和37～38年頃に、中遠観光協会〔袋井市観光協会の前身団体〕が、可睡斎・油山寺・尊永寺(法多山)を一体的にPRするために新たに提唱した呼び名)、小笠山総合運動公園エコパ、ふくろい遠州の花火へ訪れる割合が8割以上を占めています。



資料: 袋井市観光基本計画

■遠州三山

袋井市には「遠州三山」という言葉に象徴されるように、古くから仏教文化が花開いています。この遠州三山とは真言宗二ヶ寺と曹洞宗一ヶ寺を指しています。

油山寺は、一般には「あぶらやま」と呼ばれ、眼病治癒の薬師として信仰を集める真言宗の寺院です。山号を医王山と言い、奈良時代に行基によって開かれたと伝えられています。油山寺には多くの建造物があり、市内でも有数の指定文化財の宝庫となっています。

尊永寺は、一般には法多山と呼ばれ、厄除観音で信仰を集めています。本尊聖観世音菩薩は秘仏で60年に一度のご開帳となっています。このお寺も行基によって開かれたと伝えられる真言宗の寺院です。平安時代には白河天皇、後白河天皇の勅願寺となり、戦国時代には駿河国今川氏から寺領の安堵を受けていました。

可睡斎は曹洞宗の寺院で、東海地方でも有数の寺院です。応永14年(1407年)に久野城の近くに「如仲天閻」が草庵を建てたのが始まりといわれています。元亀3年(1572年)に上洛を目指した甲斐の武田信玄は、境内で兵隊が乱暴を働かないように禁止命令書を発行しています。また、天正11年(1538年)には徳川家康が三河・遠江・駿河・伊豆四ヶ国の曹洞宗寺院を支配する僧録寺院(系列寺院の管轄や、人事をつかさどる寺院)としました。

明治時代になると秋葉寺が廃寺となり、火伏の神「秋葉三尺坊」(浜松市天竜区春野町に

あった秋葉寺に祭られていたものが、明治時代に行われた神仏分離令によって可睡斎に移ったもの。)が可睡斎に移ってきました。このため秋葉神社本殿も造られ、さらに多くの参拝者が訪れるようになりました。



遠州三山の位置図

(3) まちづくり協議会（コミュニティセンター）

袋井市では、平成30年(2018年)4月から市内13館の公民館に、豊沢ふれあい会館^{とよさわ}を加えた14館をコミュニティセンターへ移行し、市民と行政との協働によるまちづくりを一層進め、地域住民による「地域づくり・まちづくり」を進める体制づくりを目指して来ました。

従来の公民館は、社会教育法に基づく施設として、これまで定期講座や講習会、レクリエーションなど社会教育に関する事業が行われて来ました。コミュニティセンターは、今までの公民館活動の社会教育・生涯学習の場に「地域づくり・まちづくりの拠点」としての役割が加わり、交流・にぎわいづくりによる収益事業なども可能となるなど、活動の幅や、利用する自由度が広がり、充実した地域独特の特色ある活動が行われています。

コミュニティセンターの活動は、地域に住む一人ひとりがセンターを活動拠点として、地域づくりについて話し合う「まちづくり協議会」で決まっています。

まちづくり協議会は、コミュニティセンター単位で組織され、構成員はその地域に住んでいる人や活動している団体、事業所などで、共に助け合う（共助）視点を持ち、地域に住む一人ひとりや団体がお互いに連携・協力しながら参加・協力していくことでそれぞれの地域の特色を活かした「地域づくり・まちづくり」を目指しています。健康づくり・福祉・子育て・地域防災・生涯学習などさまざまな地域課題を解決する活動を継続的に行うことで、地域に連携・一体感が生まれ、暮らしやすい地域づくりを目指しています。

(4)教育（学園）

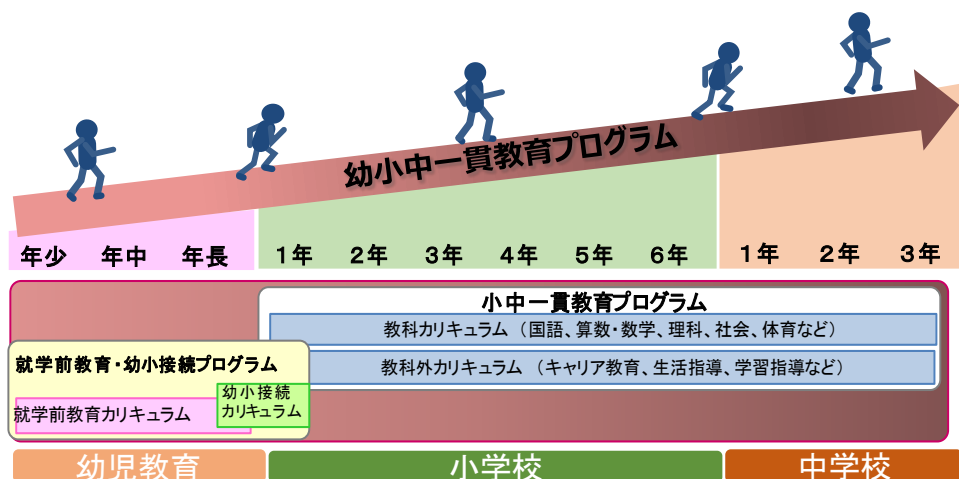
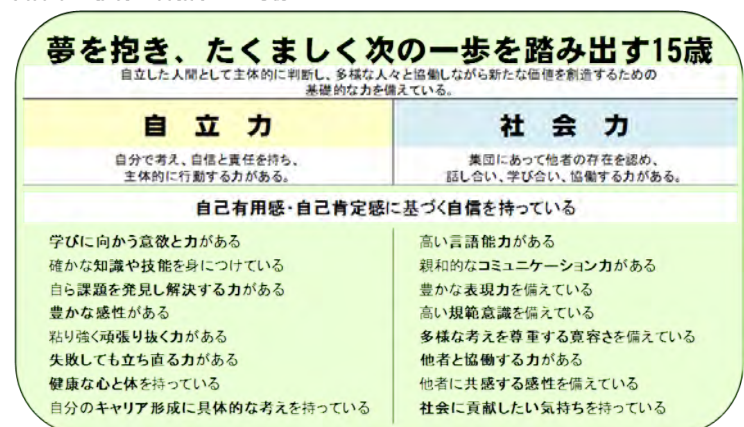
変化が激しく先行きを見通すことが容易でないこれからの新しい時代、人生100 年時代とも呼ばれる長い人生を楽しみ幸せを感じながら生きていくためには、一人ひとりが確かな学力とあわせて、粘り強さやチャレンジ精神など(非認知能力)を備える必要があります。このため、袋井市では、自分で考え、自信と責任を持ち、主体的に行動するための「自立力」と、集団にあって他者の存在を認め、話し合い、学び合い、協働するための「社会力」を身に付けることを目指しています。

袋井市には、中学校が4校、小学校が12校、幼稚園・こども園・保育園が50園（令和4年4月現在、公立13園、私立18園、小規模15園、認可外2園、企業主導型2園）あります。4つの中学校区ごとに施設分離型の一貫校（「学園」という。）を形成し、幼児教育・保育、小学校、中学校の12年間を見通したカリキュラムで、確かな知識や技能とともに、他者と協働する力などを育成する「幼小中一貫教育」を実施しています。

それぞれの学園には、前述のコミュニティセンターとまちづくり協議会があり、地域住民による裁縫の学習支援、放課後学習、読み聞かせなど、地域と学校が一体となって子どもを育てる取組が進められています。

また、学校応援市民ボランティアなどによる草刈り活動などを通じ、地域が学校を支える仕組みづくりも広がっており、11ページに示した市の変遷図における明治22年(1889年)当時の村が、現在の小学校区とほぼ重なっており、その後、町から市へと発展していく過程での地域的な結びつきが強いのも学園の特徴で、本計画における「調査研究」、「保存・継承」、「公開・活用」の基本的な方向性を実現する際には、この地域との結びつきの強い学園の体制と理念が役立つものとなっています。

～ オール袋井で育てる15歳の姿 ～
袋井市の教育が目指す子ども像





学 園 図

■周南たちばな学園

校区にある用福寺には、日本三筆の一人とされる橘逸勢^{たちばなのはやなり}の最期の句と供養塔があります。周南中の合唱祭の名前を「たちばな祭」とするなど親しまれています。

■袋井あやぐも学園

「あやぐも」は「彩雲」^{さいうん}とも呼ばれ、この雲を見るとめでたいことが起きると言われています。この言葉は、袋井中学校の校歌(歌詞)に使われ、合唱コンクールの名称としても親しまれています。子どもたちの未来が輝かしいものになってほしいとの思いが込められています。

■南の丘学園

袋井南中学校は、小高い丘の上に建っています。この丘を登りきる(卒業する)までに、「夢を抱き、たくましく次の一步を踏み出せる力」を備えていくとの思いが込められています。

■浅羽学園

校区の由来をたどると、多くが平安時代に築かれた莊園^{しょうえん}であり「浅羽莊」^{あさばのしょう}と呼ばれていました。古くから親しまれてきたこの名前を掲げ、地域が一体となって子どもたちを育てていく思いが込められています。

(5) 博物館・資料館及びその他文化施設等

本市における博物館・資料館及びその他文化施設等は、次の9施設があります。このうち、博物館・資料館類似施設としては、袋井市郷土資料館・近藤記念館と、袋井市歴史文化館があります。

ア 袋井市郷土資料館・近藤記念館

袋井市郷土資料館と近藤記念館には、発掘出土品などから市の歴史を辿る展示や、市の年中行事などを職員手作りのジオラマやパネルで紹介しています。

また、企画展・特別展に際しては、外部講師を招いた講演会や、職員による解説講座などを実施しています。

イ 袋井市歴史文化館

袋井市歴史文化館では、合併前の旧袋井市や旧浅羽町^{あさばちょう}における市史や町史編さんに際して収集した古文書などの資料を保管するとともに、寄贈を受けた資料調査において判明した情報などを、館内の展示施設で定期的に展示・公開しています。また、古文書の解説などを中心とした市民対象の講座を定期的に実施しています。

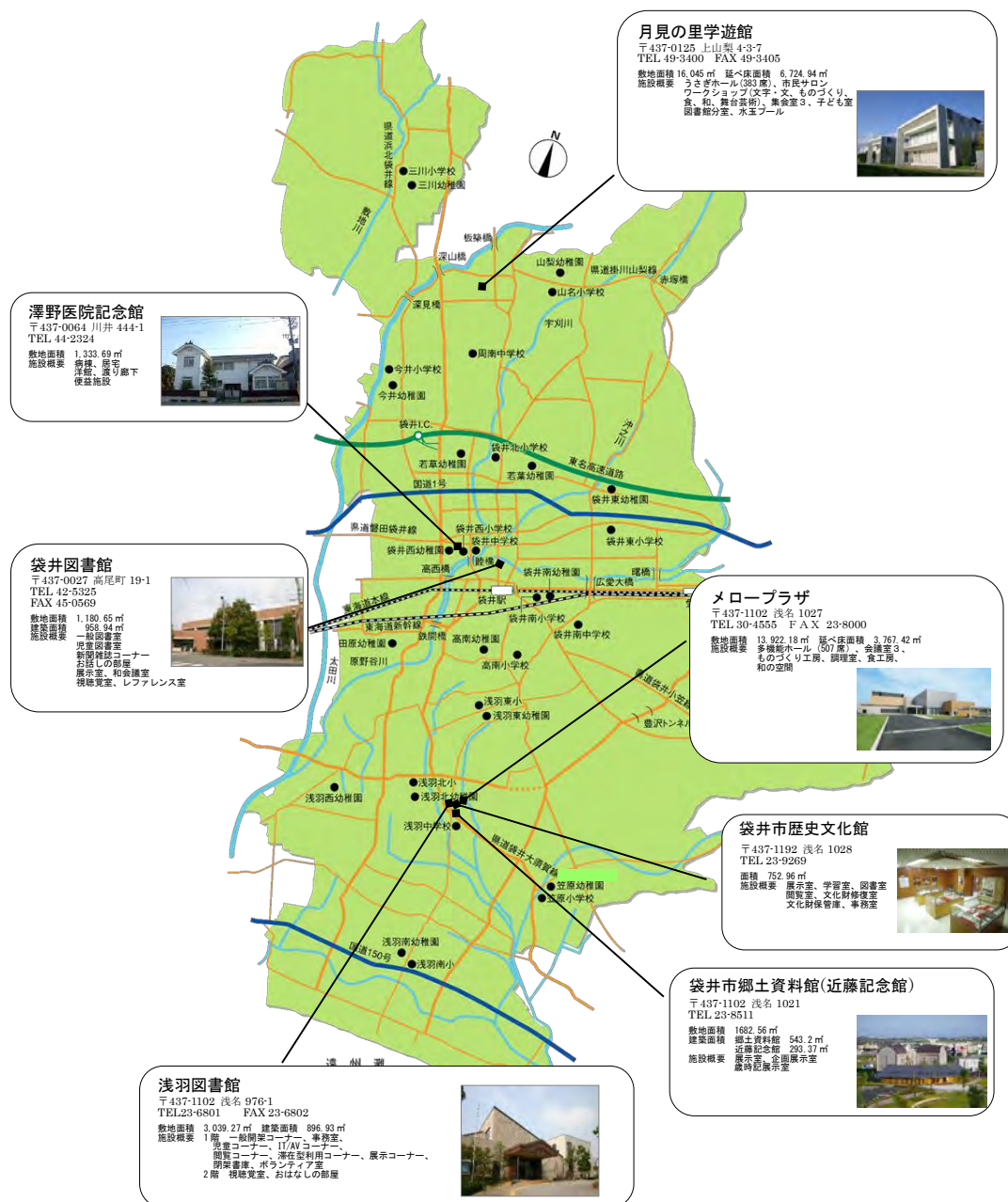
ウ 月見の里学遊館

月見の里学遊館^{つきみ さとがくゆうかん}は、平成13年(2001年)に市の公共文化施設としてオープンしました。コンサートホール、ワークショップルーム、図書館分室など、文化芸術活動の拠点としての機能を有する一方で、プールやフィットネスルームなど健康文化活動の場も備えた、複合型生涯学習施設です。

館の名称にある「月見の里」は、この地区が古くは「月見里」(読みは「やまなしの
 さんびつ ふうかい さ が てんのう たちばなのはやなり
 さと」)と呼ばれていたことに由来します。日本三筆(空海・嵯峨天皇・橘逸勢)とし
 て名高い橘逸勢が詠んだとされる歌(掛川藩が19世紀前半に編さんした歴史書
 『掛川誌稿』に収録されている)の中にみえ、歴史的に由緒のある地名となっています。

エ メロープラザ

メロープラザは、多彩な市民活動によって人づくりとまちづくりを推進するとともに、市民相互の交流を深め、地域文化の振興に資する施設として、平成22年(2010年)に開館しました。館の名称の基となった「メロー」とは、みんなが明るく朗らかで、気軽に声をかけあうことができる豊かなまちを意味しています。



博物館・資料館及びその他文化施設等分布図

市の施設 (文化施設等)	主な指定文化財	まちづくり協議会 (コミュニティセンター)		幼小中一貫教育		
			歴史文化に関する 活動団体	学園	小学校	中学校
月見の里学遊館 宇刈里山公園	西楽寺本堂 西楽寺薬師如来坐像 西楽寺阿弥陀如来坐像 正福寺梵鐘	三川 山名 今井	三川歴史研究会 トレインものづくり	周 南 た ち ば な	三川小 山名小 今井小 (袋井北小)	周 南 中
澤野医院記念館 旧中村洋裁学院 どまん中茶屋	富士浅間宮本殿 油山寺山門 油山寺三重塔 油山寺本堂内厨子 可睡斎護国塔 油山寺本堂 油山寺書院 油山寺方丈 油山寺の御霊杉 可睡斎梵鐘 紙本墨書示了然道者法語	袋井東 袋井西 袋井北	久野城址保存会 久努の松並木愛護会 袋井東歴史プロムナード 久努村史を調べる会 新屋の歴史を考える会 澤野医院記念館世話人会 ふるさと研究会 ふるさと土橋研究会 木原大念仏保存会	袋井あやぐも	袋井東小 袋井西小 袋井北小 (今井小)	袋井中
袋井図書館 観光案内所	尊永寺仁王門 金銅五種鈴 法多山田遊祭 七段 大門大塚古墳	袋井南 高南 豊沢ふれあい会館		南の丘	袋井南小 高南小	袋井南中
郷土資料館 近藤記念館 歴史文化館 浅羽図書館 メロープラザ	岩松寺の鰐口 五ヶ山B2号墳出土遺物 大野・中新田命山	笠原 浅羽北 浅羽西 浅羽東 浅羽南	浅羽史談会 浅羽古文書クラブ	浅羽	笠原小 浅羽東小 浅羽北小 浅羽南小	浅羽中

市民活動の枠組みと文化財

※赤字: 国指定・青字: 県指定

オ 市立図書館（袋井図書館・浅羽図書館・月見の里学遊館分室）

市立図書館は、袋井図書館を中心に、市北部では前述の月見の里学遊館内に、図書館分室を設けるとともに、市南部では郷土資料館や歴史文化館と隣接する位置に浅羽図書館を配置し、一般書、児童書に加え、県内の市町村史や、本市を中心とした、県内の、郷土の歴史関係資料などを配架しています。

カ 澤野医院記念館（市指定文化財）

享保12年(1727年)に作られた『山名郡川井村差出明細帳』は、本道(内科)医としてその名が記され、代々地域医療を担った澤野氏より袋井市が建物の寄附を受け、病棟・居宅・渡り廊下・洋館の四棟と、便益施設の整備を行い、公開と管理業務について澤野医院記念館世話人会の協力を得ながら、平成13年に記念館として開館しました。居宅は安政元年(1854年)に起きた大地震の翌年再建され、洋館は大正5年(1916年)、病棟は昭和9年(1934年)に再建されました。これらの建物群は、袋井市の近代化と地方医療の歴史を物語るものとして、平成11年に袋井市指定文化財に指定されました。

3 歴史的背景

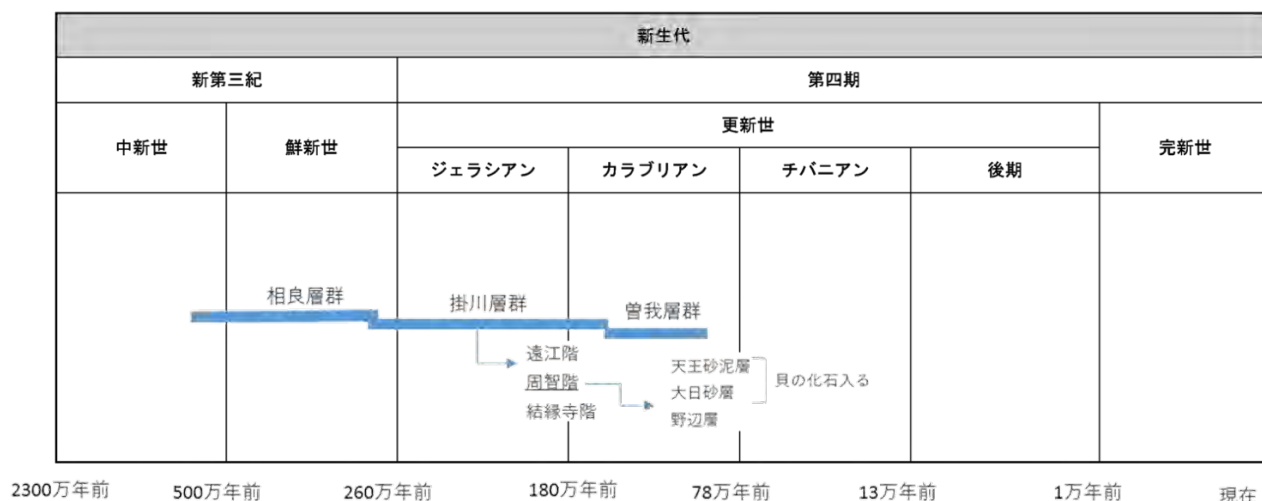
(1) 袋井の黎明

袋井市内では、人間活動が開始される以前の古い地層を観察することができます。今から約260万年前から現在までの期間のことを第四紀といい、これを二分して更新世と完新世と呼びます。地球の磁気が逆転した時期とされる第四紀更新世チバニアン期（77万4千年前から12万9千年前）よりも前に堆積したジェラシアン期堆積層（258.8万年前から180.6万年）にあたる砂層と、カラブリアン期堆積層（180万年前から78.1万年前）にあたる礫層群やその他の砂層から、この時代の貝類化石が発見されています。

また、中新世後期から鮮新世に堆積した地層は相良層群、鮮新世後期から第四紀更新世前期前半に掛川層群、更新世前期後半は曾我層群と名が付けられています。

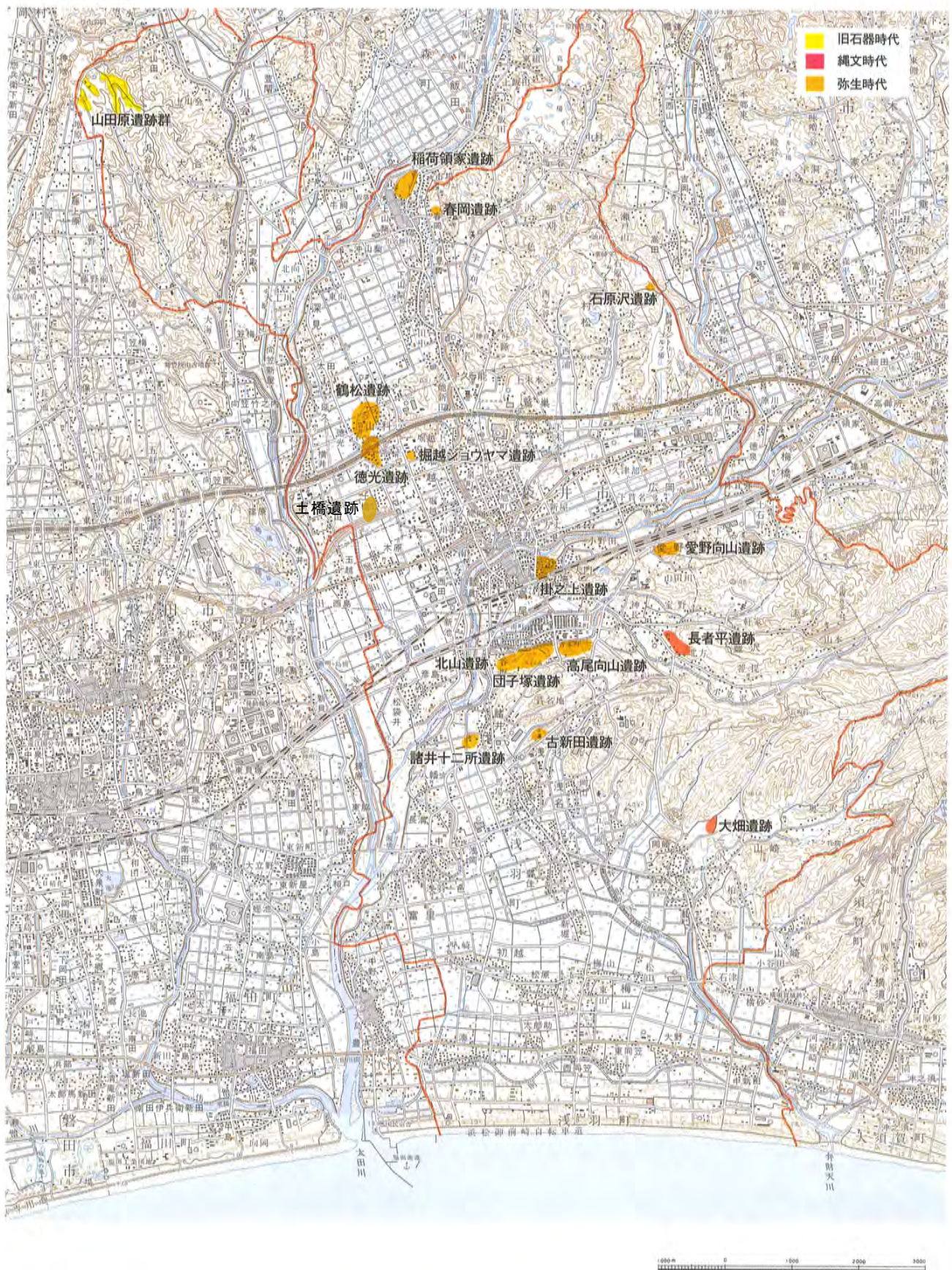
掛川層群は、東は牧之原市から小笠山全域、西は掛川・袋井を経て磐田市北部まで、東西35 km、南北最大幅20 kmの広い範囲に分布しています。掛川付近を境に東側に深海の堆積層である下層が、そして、西側では浅海の堆積層の上層が地表に現れています。

袋井付近の掛川層群はさらに、遠江階・周智階・結縁寺階の層群に分けられます。そして周智階は天王砂泥層、大日砂層、野辺層に分けられ、砂から泥、そして砂というような堆積状態を見せています。これは地層に含まれている貝類の化石を見ても浅瀬の海に棲む種類のもの（浅海性）から深い海に棲む種類のもの（深海性）に移り、再び浅海性のもに変わることから、海進、海退の変化を知ることができます。また、亜熱帯の動物群から現在のような温帯の黒潮動物群への変化も見られ、気候変動による海面の水位の変化があったことがわかります。



袋井市を中心とした地層編年表

旧石器時代から弥生時代までの袋井市域の主要遺跡



袋井市域に、人が暮らし始めたのを確認できるのは、今から約1万5千年前の後期旧石器時代^{きゅうせつきじだい}で、最初の住人の痕跡は、磐田原台地^{いわたばらだいち}に立地する山田原遺跡^{やまだばら}から発見されています。

この頃の磐田原台地^{いわたばらだいち}は、現在の静岡県内でも箱根山西麓^{はこねさんせいろうちいき}地域や愛鷹山南麓^{あしたかやま}地域に次ぐ人口集中地域で、本市と磐田市域では多くの後期旧石器時代^{きゅうせつきじだい}のムラの痕跡が確認されています。

山田原遺跡^{やまだばら}における昭和58年(1983年)の発掘調査によって、火を使った跡と考えられる焼石^{やけいし}のかたまりや、炭化物のかたまり、石器、石器の破片などがたくさん見つかりました。



遺物や礫群が掘り出されたところ



炭化物のかたまり(バーベキューの跡?)

表土
黒色土(クロボク) 縄文時代包含層
黒褐色土 旧石器時代包含層
赤黄色層 旧石器時代包含層



土層断面

山田原遺跡の様子

続く縄文時代は、今から16,000年から2,300年前までの1万年以上続く時代で、出土する土器型式に基づいて6期(草創期・早期・前期・中期・後期・晩期)に区切られています。

縄文土器の出現によって、人々は容易に食物を煮ることができるようになったことから、調理できる食物の数が増え、多くの種類の食物が発見されています。その結果、栄養価が高まり、生活は安定し人口も増えました。土器作りは、弓矢とともに、縄文人の画期的な発明でした。

太田川・原野谷川流域の丘陵地や台地上には60ヶ所以上の縄文時代の遺跡が分布し、それらは山の尾根や川筋を境にして、大きく5つの地域的なまとまりをつくっています。

この中には、大きな集落もあれば、土器や石器が数点だけ出土する小さな遺跡も含まれています。こうした遺跡群は同じ時代のものではなく、一つの集落の長い年月にわたる移住や、漁や狩り場での野営行為の結果形づくられたもので、縄文人の日常生活圏と考えられます。しかし、これを見ても袋井市域に存在する集落の数がきわめて限られていたことがわかります。

袋井市域で見つかった集落跡には長者平遺跡と大畑遺跡があり、共に小笠山丘陵の西南山麓に位置しています。

長者平遺跡は昭和53年(1978年)以来続いた発掘調査によって、今から約5,000年前に集落が営まれ、4,000年前には遠江でも有数の大集落に発展しましたが、3,500年前に突然人々がいなくなり廃絶したことがわかりました。



長者平遺跡 姿をあらわした竪穴住居跡



長者平遺跡 炉跡(中に焼土がみられる)



大畑遺跡 昭和56年度 南調査区の様子



大畑遺跡 昭和62年度 調査地全景



集落は、住居、墓地、祭り場、広場、集会所などから成り立ち、掘り出された6棟の
 竪穴住居跡はすべて円形でした。住居は2棟がセットとなり、広場を取り囲むように
 して、段丘の縁に分布していました。

大畑遺跡からは、貝塚が見つかっています。コイやウナギなどの内陸魚の他に、エ
 イ・ニシン・ボラ・スズキ・クロダイ・カレイ・マグロなどの沿岸、外洋に棲む魚の骨
 も多く含まれています。土壌と呼ばれる墓穴からは手足を折り曲げて葬る屈葬人骨が出
 土し、竪穴住居の隣に埋葬された犬の骨も見つかりました。

大畑遺跡から出土する土器から様々な地域との交流が窺えます。縄文時代中期前葉には
 中部山岳系の土器、中期末葉になると関東地方や西日本の土器も出土するようになり、そ
 の後も様々な地域の土器が出土しています。

(2) 稲作と定住、ムラの発展

弥生時代は、約2,300年前から1,700年前の約600年間のことで、弥生時代中期から後期にかけて、肥沃な水田地帯をひかえた沖積地のムラである鶴松遺跡では、耕作地を広げて地域の中心的なムラに発展したと考えられています。

低位の丘陵上に立地する掛之上遺跡や、小高い丘の上に立地する愛野向山Ⅱ遺跡、周囲に溝を掘り廻らしたムラである一色前田遺跡も現れます。

微高地上には、導水のための水路を確保しながら、鍬や鋤等の農具・高床倉庫などを備え、水田を形成するムラとして立地する堀越ジョウヤマ遺跡や、壺や高坏など豊富な土器を持ち、二又鍬など農具によって耕作をしていた土橋遺跡や、丘陵の縁辺部に立地し、水田耕作を行っていた春岡遺跡などが現れてきました。

掛之上遺跡では銅鐸片、愛野向山遺跡では小銅鐸、大門遺跡からは銅鐸形土製品が出土しており、銅鐸の分布範囲に含まれていたと考えられます。

埋葬形態として特徴的なものは方形周溝墓で、団子塚遺跡、北原遺跡、高尾向山遺跡、掛之上遺跡、大門遺跡などで集中的に確認されており、群を成しています。



春岡遺跡 水田畦畔からの木製品出土のようす



堀越ジョウヤマ遺跡 長柄鋤出土のようす



団子塚遺跡の方形周溝墓群



愛野向山遺跡（丘陵の斜面に営まれた集落）

『魏誌』東夷伝倭人条の「倭国大いに乱れる」の記事をうかがわせるような、高地に営まれた集落



愛野向山遺跡 小銅鐸の出土のようす

木棺墓群の棺上から、ガラス小玉・極小偏平片刃石斧・有孔偏平鏢・破砕土器とともに出土した。



掛之上遺跡の復元銅鐸（高さ52cm、幅27cm）

9次調査で、破片として出土した。類似する浜松市細江の穴ノ谷銅鐸（近畿式）をモデルにして復元した。

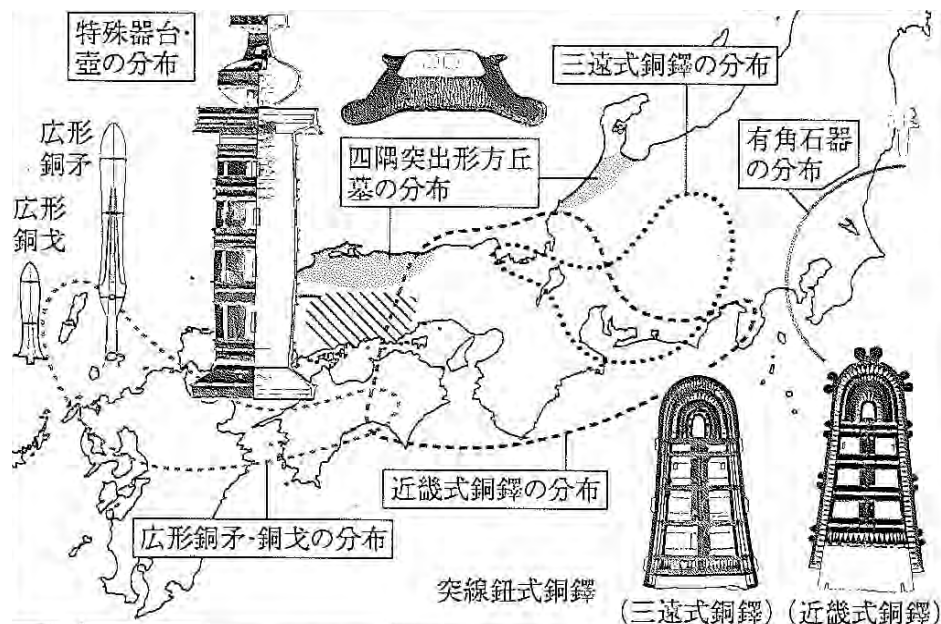


愛野向山遺跡 小銅鐸（高さ7.5cm）

銅鐸に麻の紐を巻き付けて舌に転用している。紐の内側頂部には摩擦痕があり、実際にぶら下げて鳴らしていたことがわかる。銅鐸は3.5cm。

銅鐸のまつり

弥生時代の祭りの道具を代表するものに銅鐸があり、袋井市域からは掛之上遺跡と愛野向山遺跡の2ヶ所で出土しています。一般の銅鐸は人々の生活とは隔絶した場所に、埋納土坑を伴い厳格に埋められる場合が多く、集落全体に関わる農耕の祭りに係わる道具と考えられています。これに対し小銅鐸は、溝・住居跡・墓・井戸というように、銅鐸と同じような埋納方法を示すものはありません。このことから、小銅鐸の祭りは家族や個人の祭り、例えば悪霊や病魔の祓いに用いられたのではないかと考えられています。



1世紀後半～3世紀頃の銅鐸の分布（『日本の歴史02』王権誕生）

(3) 地域的支配者層の登場と象徴としての墳墓

古墳時代(3世紀中ごろから7世紀頃まで)は、前期(3世紀中ごろ～4世紀)、中期(5世紀)、後期・終末期(6世紀～7世紀)に区分されています。

坂尻遺跡や掛之上遺跡、古新田遺跡のような大規模なムラでは、支配者の居住区画も含まれていました。そして、支配者層の墳墓である古墳は市内に200基ほどの古墳が確認されています。

五ヶ山B-2号古墳(方墳:5世紀前半築造)からは、甲冑(三角板革綴短甲・三角板革綴衝角付冑・頸甲・肩甲)や革盾、大刀、鉾(静岡県指定文化財)、石ノ形古墳(造り出し付円墳:5世紀後半築造)からは、横剥板鉾留短甲や馬具、大刀、蛇行剣が、団子塚9号墳(円墳:6世紀前半築造)からは、挂甲や捩じり環頭大刀、馬具が出土し、埋葬者の生前の社会的地位を証明する貴重な資料として知られています。



五ヶ山B-2号墳出土遺物

大門大塚古墳(円墳:6世紀中頃築造)は静岡県内の古墳時代後期を代表する古墳として墳丘と埋葬施設である石室から発見された土器や馬具、刀剣類などの出土遺物が静岡県指定文化財に指定されています。

古墳時代後期には横穴式石室や横穴墓、横穴式木室(木芯粘土室)という全国的にも類例の少ない主体部をもつ古墳など、さまざまな埋葬施設を持つ古墳を見ることができ、墳墓から見た当時の社会構造を知る上では貴重な事例と考えられます。

『先代旧事本記』巻十「国造本紀」には遠江に遠淡海国造、久努国造、素賀国造の3

^{くにのみやつこ}
 名の国造の名が記され、当時の支配者を知ることができます。その中の1人、久努^{くどくの}国造^{のみやつこ}
 は、旧袋井市成立前にあった山名郡久努郷^{やまなぐんくどこう}を本拠地としていたと推定されます。奈良時代に郡役所が置かれた坂尻^{さかじり}遺跡^{なつもり}に近い七ツ森神社では、ご祭神として祀っており、現在の地名である「久津部」^{くつべ}は当時「郡辺」^{こおりべ}と書き、七ツ森神社は『延喜式』^{えんぎしき}に記された山名郡^{やまなぐん}4社の内の1社、「郡辺神社」^{こおりべ}であったと推定されています。



石室



墳丘測量図



有蓋脚付短頸壺



広口壺・器台



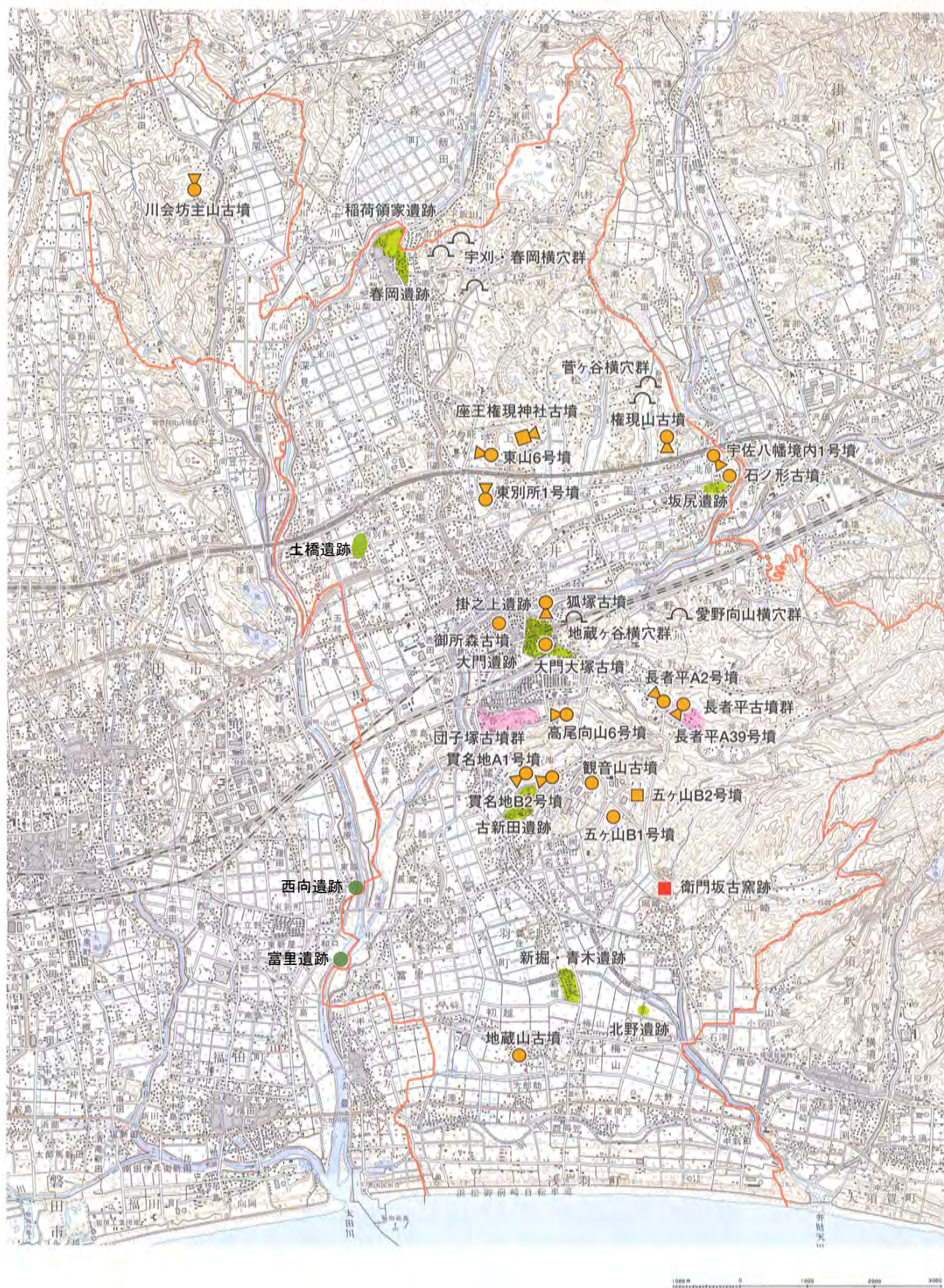
装身具



馬具

大門大塚古墳（『遺跡でたどる袋井のあゆみ』）

古墳時代の袋井の主要遺跡



(4) 律令行政施設と東海道

奈良・平安時代は、^{りつりょうせいど}律令制度による国家体制の整備が行われた時代です。8世紀初頭に成立した^{りつりょうこっか}律令国家の特徴は中央集権的な社会・政治構造で、^{へいじょうきゅう}平城宮に代表される中央政府が地方の国・郡を直接に指揮・監督する体制でした。その制度は「国郡里制」と呼ばれ、特別行政区とされていた^{ごきない}五畿内（^{やまとのくに}大和国・^{せつつのくに}摂津国・^{かわちのくに}河内国・^{やましろのくに}山背国・^{いずみのくに}和泉国）を中心に、そこから^{ほうしゃじょう}放射状にのびる^{とうかいどう}東海道・^{とうさんどう}東山道・^{ほくりくどう}北陸道・^{さんいんどう}山陰道・^{さんようどう}山陽道・^{なんかいどう}南海道・^{さいかいどう}西海道の七つの^{しちどう}幹線行政区分（七道）とその支路や連絡路、三関（^{さんげん}不破関・^{ふわ}鈴鹿関・^{すずか}愛発関）をはじめとする関所などから成り立っていました。

^{こくぐんりせい}国郡里制（古代の地方制度）の施行当初、^{さや}袋井市域は^{ぐん}佐野（益）郡と^{ながたぐん}長田郡、^{しゅうちぐん}周智郡に含まれていたと考えられています。^{ながたぐん}長田郡は和銅2年(709年)に^{ながのかみ}長上・^{ながのしも}長下の二郡に分かれましたが、『和名類聚抄』に記載された^{ながのしもぐん}長下郡の郷名に「貫名」の名が記されていることから、本市域の南部が^{ながのしもぐん}長下郡であった可能性があります。

^{えんりやく}延暦16年(797年)に編さんされた『続日本紀』養老6年(722年)2月16日条に「丁亥（十六日）、割^{とおとうみのくに}遠江国^{さやぐん}佐益郡八郷^{やまなぐん}、始置^{やまなぐん}山名郡」と記され、山名郡が佐野（益）郡から分割し設置され、^{はらのや}原野谷川兩岸の地域の大半が山名郡となったと考えられています。

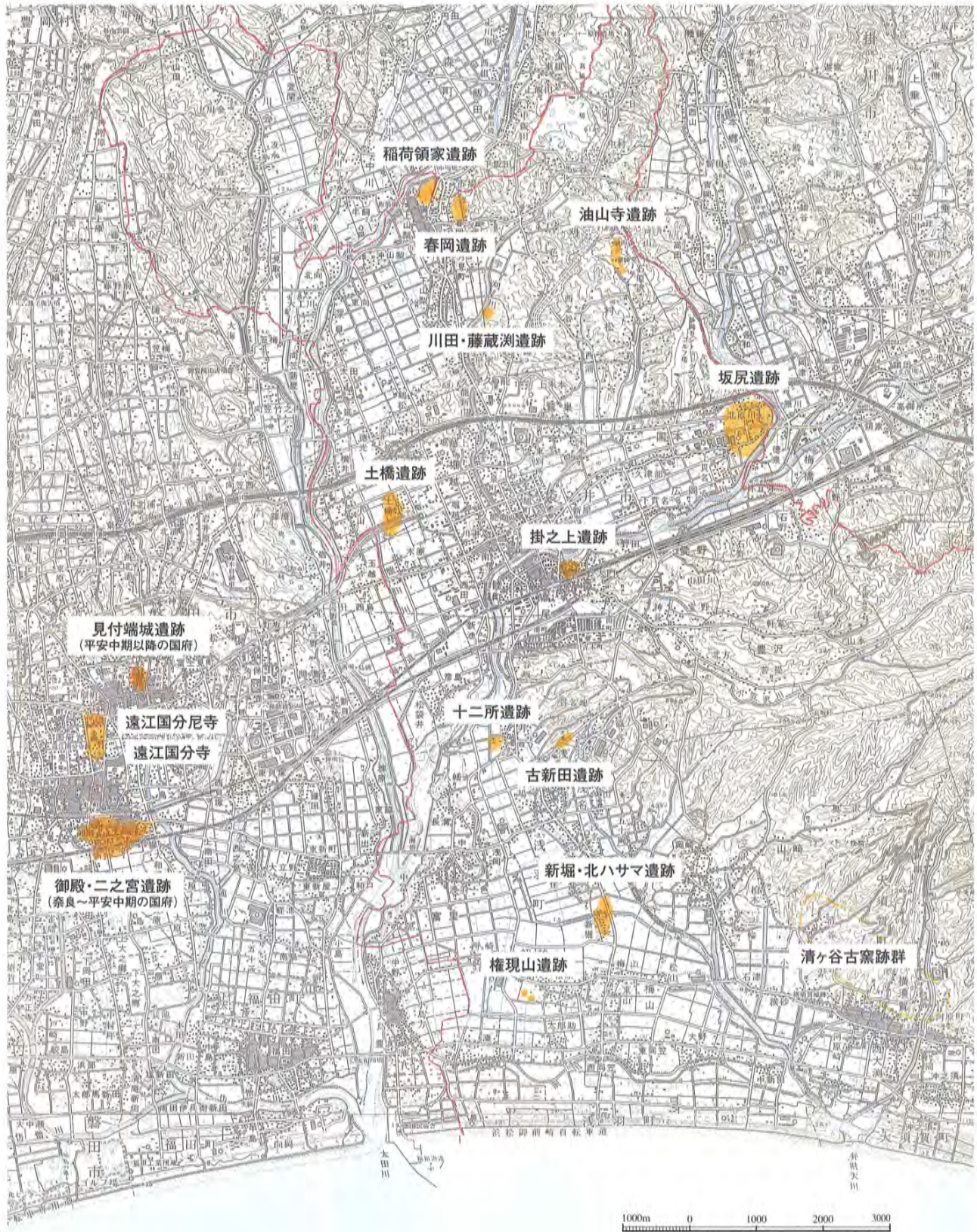
発掘調査などによって発見された出土遺物から、^{しゅうちぐん}周智郡の郡衙（郡の役所）は^{ぐんが}稲荷領家遺跡、^{さやぐんが}佐野郡衙は^{さかじり}坂尻遺跡と考えられます。山名郡衙については、^{やまなぐんが}掛之上遺跡が候補としてあげられますが、税として集めた米などを保管する^{ならびくら}双倉の跡が発見されたものの郡衙にあるべき郡庁（郡司が政務を執った建物）などの建物跡や^{ぼくしよどき}墨書土器などがあまり見られないことから、他所にある可能性も考えられます。

平城京から「遠江国山名郡進上中男作物堅魚十斤天平十七年□月」と書かれた木製荷札（^{もっかん}木簡）が出土していることがあげられます。この木簡は、^{てんぴよう}天平17年(745年)に遠江国の山名郡に住んでいた中男（^{ちゅうなん}養老令では17～20歳）が、^{ようろうりよう}乾燥した^{じゅうきん}鰹十斤（約6～7kg）を奈良の都に納めた記録を記した送り状です。都と袋井市（^{まんのうしゅう}万葉集）の関係を示す重要な記録です。

『万葉集』には、^{やまなぐん}山名郡出身の防人（^{さきもり}丈部真麿・^{はせつかべの まろ}丈部川相）の歌や本市域南部の地名「^{あさばの}浅羽」の由来（^{はせつかべの かわい}浅葉野）と見られる歌も載せられています。

平安時代の幕引きとなった、^{ほうげん}保元・^{へいじ}平治の乱と、一般に源平合戦と呼ばれる^{じしやう}治承・^{じゅえい}寿永の内乱と呼ばれる騒乱は本市域でも無関係ではなく、平治の乱で^{へいじ}落命した^{らん}源義朝・^{らくめい}義平・^{みなもと}朝長の^{よしもと}供養塔が^{よしひら}積雲院門前に祀られ、朝長の最期にまつわる伝承が残されています。

奈良・平安時代の袋井の主要遺跡



(5) 荘園と武士団の勃興・戦国の動乱

もっとも古く「袋井」の名を記す資料は、正安2年(1300年)に成立した高階宗成の「遺塵和歌集」があり、弘安年間末(1287～1288年)の鎌倉までの宿場名を歌った長歌に、袋井のほか橋本・引馬・池田・懸川・鳴滝・山口・菊川の遠江国8宿と、駿河国18宿が読み込まれています。

袋井は鎌倉時代中ごろまでには宿場(商業・宿泊地)として成立していたと考えられます。公設の街道施設ではなく、地域的有力者によって営まれた宿場と見られます。東海道は海沿いを通り、峠越えや大河の渡しなどの景勝地に恵まれていたため、往来する旅人間で名所や古跡が話題となり、歌枕として広く知られるようになって、しばしば和歌や漢詩、物語、宴曲、謡曲などの題材になっています。

建武3年(1336年)には、南朝方の井伊氏が挙兵し、北朝軍(足利軍)と遠江国内で衝突しました。8月12日(旧暦)には袋井宿の近くでも戦(袋井畷の合戦)となりました。袋井周辺では南朝勢力が優勢で、南朝方皇子が移り住んだ館に由来する「御門」や「大門」などの地名がJR袋井駅周辺に残されています。

現在の東名高速道路袋井インターチェンジ南東の海蔵寺近くには、北朝軍の九州方面軍を指揮して、北朝に勝利をもたらした、幕府の要職を歴任した今川貞世(了俊)が晩年暮らした屋敷跡があったと伝えられ、海蔵寺境内は貞世の弟の今川仲秋の屋敷跡とも伝えられています。貞世らの父である今川範国は、戦国大名になる今川氏の基礎を築いたことでも知られ、駿河・遠江の守護を任じられていた人物です。

応仁の乱の影響を受ける中、袋井周辺では遠江守護の座をめぐって、中央から派遣されてきた斯波氏と駿河の今川氏が対立します。文明6年(1474年)以降、駿河の今川氏が本格的に遠江進出を始め、久野氏の一族、久野清憲は今川氏に従います。両陣営の武将は自らの拠点地を守るため城塞の構築が進められ、春岡の村松氏は本庄山砦、堀越氏も屋敷背後や付近の丘陵に堀越城、小笠原氏が南部海岸平野を見わたす丘陵上に馬伏塚城、今川氏の家臣の久野宗隆は本貫地の西側にある丘陵先端部に久野城を明応3年(1494年)頃に築城しました。

元龜3年(1572年)、久野城は武田信玄の本隊に攻められましたが、信玄は落城させることなく軍を西へ向け、木原へ進軍し、三方原の合戦の前哨戦として三ヶ野に陣取る徳川軍と戦いました(木原畷の戦い)。

小田原合戦の後、徳川家康の関東入封の際には、久野宗能は下総の佐倉に1万3千石を与えられ、転封となりました。その後、東海道の諸城には関東の抑えとして豊臣秀吉系の武将が配置されました。久野城は松下之綱が城主となり、東海道の沿線の治安維持にあたりました。発掘調査の成果からは、城内で大規模な拡張整備が行われ、多くの建物が瓦葺きとなり、中には鯪瓦を載せた建物もあったことが想定されます。



久野城址

(6) 戦国時代の終焉と東海道袋井宿

慶長3年(1599年)に松下之綱の跡を継いで久野城主となった松下重綱は、秀吉死後、主を徳川家康とし、関ヶ原の合戦では東軍に属し、岐阜城攻めなどの活躍から旧領を安堵されました。この後、松下氏は徳川幕藩体制に組み込まれ、近世大名の久野藩主となりました。関ヶ原の戦後処理として、徳川家康は大坂方に属した大名の改易(所領没収)や所領の削減と転封を断行し、久野藩周辺でも横須賀藩、掛川藩、浜松藩にそれぞれ譜代大名が移されてきました。重綱も慶長5年(1603年)になると、幕府に無許可で石垣を築いたことから常陸小張へ転封となりました。

元和5年(1619年)に徳川頼宣が和歌山藩主となり紀州へ移ると、それに従って久野宗成は伊勢田丸藩へ移っていきました。次に城主となったのは北条氏重で、氏重は横須賀城番や田中城番を歴任し、寛永17年(1640年)に転封となりました。その後、しばらくの間、久野城は横須賀藩の預かりとされていましたが、正保元年(1644年)になると幕府直轄となり、廃城となることが決定されました。

徳川家康は、関ヶ原の戦いで勝利をすると、東海道の整備を慶長6年(1601年)に始めました。市内には久津部から反所(新屋)までと、川井から木原までの間に松並木が整備され、道中奉行が管理をしていました。

慶長9年(1604年)、徳川秀忠の命により、江戸日本橋を基点として、街道沿いに一里塚が築造されました。一里塚は、街道の両側に一里(約4km)ごとに距離の目印として設置されたもので、市内には、江戸から60里目の久津部一里塚と61里目の木原一里塚の2カ所が整備されました。

元和2年(1616年)8月4日に、宿場開設に関する達が発給され、袋井は正式に東海道の宿場となり、経済と流通の中心は宿へと移っていきました。

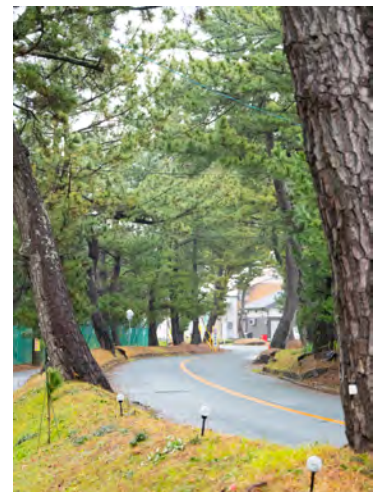
袋井宿は、原野谷川の北岸に位置し、北側に広岡川、西側は沖之川と三方を河川に囲まれ、宿場の周りには土堤が築かれ、さながら輪中集落のような様相をしています。元禄年間(1688～1704年)頃の作成と推定される市指定文化財『袋井宿絵図』には、宿場内の様子が描かれています。

嘉永7年(1854年)には、安政の大地震と呼ばれる大震災に襲われ、袋井宿は噴砂による液状化が発生し、建物の倒壊や火災発生など大きな被害を受けました。

(7) 東海道の近代化と鉄道、そして戦時下のふくろい

明治2年(1869年)に政府が建設を決定した鉄道は、明治13年(1880年)までに東京～横浜間と神戸～大津間は開業を迎えますが、明治22年(1889年)に東海道幹線鉄道(1895年から東海道線と改称)として東京～神戸間が開通しました。

袋井駅が開業すると、袋井宿は交通拠点としての地位を奪われてしまい、人や物資は駅前へと集まるようになりました。



久努の松並木

このため、^{もりまち}森町などから^{ふじえだ}袋井駅への交通手段が必要となり、^{あきはかいどう}秋葉街道沿いに、旧宿場町のまん中を通る鉄道が明治35年(1892年)12月28日、全長13.7km、軌間726mmの馬車鉄道として開業しました(秋葉馬車鉄道株式会社)。

明治44年(1911年)に藤枝から相良方面への藤相鉄道が開業したことを契機に、大正3年(1914年)に、袋井～^{よこすか}横須賀間でも中遠鉄道が建設され、昭和2年(1927年)には、^{しんみつまた}新三俣まで延長されています。昭和18年(1943年)に戦時統制の国策により静岡鉄道が成立し、^{ちゅうえんせん}中遠線、^{あきはせん}秋葉線の両線とも同社の一路線となり、袋井駅は南北の私鉄に乗り換えることができる拠点駅(ハブステーション)として賑わいを見せます。



秋葉線(袋井駅前) 『なつかしの秋葉線』

(8) 戦後復興とモータリゼーションの波

太平洋戦争の敗戦後、東海道本線は一般輸送に加えて復員兵、引揚者、疎開先からの帰省客、買い出し客たちに加え、連合軍の兵員輸送という過大な負担が重くのしかかっていました。

^{とうそうせん}藤相線、^{ちゅうえんせん}中遠線沿線には都市部からの買い出し客が殺到したため、戦前の苦境が嘘のように、両線とも超満員が続き、^{とうそうせん}藤相線と^{ちゅうえんせん}中遠線を結ぶ構想が持ち上がりました。両線とも^{けいべんてつどう}軽便鉄道で、線路幅も近く、戦争中軍が用いていた線路が同地帯にあったことから話は進み、区間開業を経て昭和23年(1948年)に両線は結ばれ、新たに「^{すんえんせん}駿遠線」と呼ばれることになりました。その結果、^{おおて}大手―^{しんふじえだ}新藤枝―^{しんふくろい}新袋井は全長64.6kmと、^{けいべんてつどう}軽便鉄道としては日本最長規模になりました。

その後、モータリゼーション(車社会化)の荒波に対抗し切れず、また老朽化した^{おおいがわきょうりょう}大井川橋梁の架け替えに多額の費用を要することから、全通からわずか16年後の昭和39年(1964年)より区間廃止が始まり、昭和45年(1970年)に全線廃止となり、代行バスに転換されていきました。

高度経済成長期には、東名高速道路の建設と袋井インターチェンジの開業、東海道新幹線の建設と開業が続きました。

(9) 災害履歴

^{つるまついせき}鶴松遺跡では、弥生時代後期前半(2世紀末)の住居跡を^{ふんさ}噴砂(地震の発生で液状化して吹き出した砂のこと)が横切っていて、弥生時代後半(3世紀)の地層で覆われていることが確認された県内最古の^{ふんさ}噴砂として知られています。

また、^{さかじり}坂尻遺跡で確認された^{ふんさ}噴砂では、6世紀末から7世紀初頭の住居跡を貫き7世紀中葉以前の堆積層まで



坂尻遺跡の噴砂

達していたものがあり、『日本書紀』天武天皇13年(684年)10月14日の条に伝える南海地震に連動した東海地震の痕跡であると言われています。

延宝8年(1680年)の台風は江戸時代最大と呼ばれるもので、『百姓伝記』によると、閏8月6日早朝から風が強くなり、昼前に高潮が押し寄せ、海岸付近の村落は波に飲まれ多くの人命が失われました。その後、避難用の築山(命山：県指定史跡)が造られました。

また、貞享3年(1686年)、渥美半島沖の遠州灘を震源とする地震では、横須賀城(掛川市)の被害が記録されていて、多くの櫓が傾いた記録が残ります。宝永4年(1707年)の地震では、袋井宿でも家屋の倒壊の記録が残され、続く余震によって天竜川などの大河川の堤防が崩壊し、街道や田畑にも地割れが発生し、地震から49日後に富士山の新たな火口から噴煙が上がりました。

文政11年(1827年)にも、台風被害の記録が残し、深見で太田川が決壊しています。そして、天保4年(1833年)から続く天候不順は収まることなく、天保7年(1836年)まで続き、その年は大潮風が吹き、塩害で大凶作となってしまいました。

近代以降の大きな災害は次のとおりです。ここでも、地震のほかに風水害が多いのが本市の特徴であることがわかります。

○ 風水害

ア	明治35年	(1902年)	3月1日	竜巻による災害
イ	明治40年	(1907年)	9月17日～18日	台風による災害
ウ	大正3年	(1914年)	8月29日～30日	台風による災害
エ	大正15年	(1926年)	9月4日	台風による災害
オ	昭和25年	(1950年)	6月9日～14日	梅雨前線、低気圧による災害
カ	昭和26年	(1951年)	7月1日～2日	台風による災害
キ	昭和26年	(1951年)	10月13日～16日	台風による災害
ク	昭和27年	(1952年)	7月10日～15日	熱帯性低気圧、梅雨前線による災害
ケ	昭和28年	(1953年)	9月25日～26日	台風による災害
コ	昭和34年	(1959年)	8月26日～27日	低気圧、温暖前線による災害
サ	昭和34年	(1959年)	9月26日	台風第15号(伊勢湾台風)
シ	昭和49年	(1974年)	7月7日～8日	台風第8号及び梅雨前線による災害(七夕豪雨)
ス	昭和57年	(1982年)	9月11日～13日	台風第18号及び前線による災害
セ	平成10年	(1998年)	9月23日～24日	前線による災害
ソ	平成16年	(2004年)	11月11日～12日	集中豪雨
タ	平成19年	(2007年)	2月14日	突風による災害
チ	平成20年	(2008年)	3月14日	突風による災害
ツ	平成23年	(2011年)	9月21日	台風第15号による災害
テ	平成24年	(2012年)	6月19日	台風第4号による災害
ト	平成24年	(2012年)	8月14日	大雨による災害
ナ	平成24年	(2012年)	9月30日	台風第17号による災害
ニ	平成24年	(2012年)	10月23日	突風による災害
ヌ	平成26年	(2014年)	10月5日～6日	台風第18号による災害

○ 震災被害

ア	宝永4年	(1707年)	10月28日	宝永地震
イ	安政元年	(1854年)	12月23日	安政東海地震
ウ	明治24年	(1891年)	10月28日	濃尾地震
エ	昭和19年	(1944年)	12月7日	東南海地震
オ	平成21年	(2009年)	8月11日	駿河湾の地震

第2章 袋井市の文化財の概要と特徴

1 指定等文化財の概要と特徴

令和4年(2022年)4月時点で、袋井市に所在する、文化財保護法(昭和25年法律第214号)の規定による国指定・登録文化財、静岡県文化財保護条例(昭和36年静岡県条例第23号)の規定による県指定文化財、袋井市文化財保護条例(平成17年袋井市条例第84号)による指定文化財の件数は合計で86件を数えます。

本市の文化財指定は、袋井市文化財保護条例及び、袋井市文化財保護条例施行規則の基準によって、本市にとって貴重な文化財又は高い技術等について指定を行っています。

指定種別では「建造物」の指定件数が多く、国・県指定いずれにおいても上位を占めています。また、「彫刻」に属する仏像の指定が多いのも特徴です。

指定等文化財件数表 (令和4年4月1日現在)

区分/種別		国		県	市	計
		指定	登録	指定	指定	
有形文化財	建造物	5	4	5	5	19
	美術工芸品	絵画	0	0	0	2
		彫刻	0	0	2	9
		工芸品	1	0	3	4
		書跡・典籍・古文書	0	0	1	12
		考古資料	0	0	1	3
		歴史資料	0	0	0	6
無形文化財		0	0	0	0	0
民俗文化財	有形民俗	0	0	0	4	4
	無形民俗	0	0	1	4	5
記念物	遺跡(史跡)	0	0	2	8	10
	名勝地(名勝)	0	0	0	0	0
	動物・植物・地質鉱物(天然記念物)	0	0	1	3	4
文化的景観		0	-	-	-	0
伝統的建造物群		0	-	-	-	0
文化財の保存技術		0	-	-	-	0
計		6	4	16	60	86

(1) 有形文化財

《指定建造物》

市内にある指定文化財の建造物は、重文5件、県指定5件、市指定5件です。

天正18年(1590年)創建の流造檜皮葺の富士浅間宮本殿(重文)を始め、真言宗の古刹として知られる油山寺には、県内唯一の江戸前期建立の城門建築として知られ、明治期に移築された掛川城御殿下御門であった油山寺山門(重文)や、横須賀城(掛川市)から移築された油山寺書院(県指定)、旧長溝村庄屋の仁科家住宅を移築した油山寺方丈(県指定)があります。



富士浅間宮本殿(重文)

油山寺三重塔(重文)は天正2年(1574)から慶長14年(1609年)までに二層までが建てられ、三層目を久野城主久野宗成が慶長16年(1611年)に完成させたものです。その塔の北側には元文4年(1739年)建立の油山寺本堂(県指定)があり、内陣には秘仏の本尊を収める油山寺本堂内厨子(重文)が安置されています。

その他、法多山の名で親しまれている尊永寺の参道入口には尊永寺仁王門(重文)があります。が、前述した富士浅間宮本殿とともに、移築建築と伝えられています。

赤尾渋垂神社の境内に建つ白山権現社(市指定)は、天正16年(1588年)に建てられた旧長楽寺(廃寺)の建物と伝えられています。また、享保18年(1735年)頃に建立されていた西楽寺本堂(県指定)は、当地方の近世本堂建築の典型的な五間堂です。格子戸などの柱間装置を境にした南側2間の外陣には大虹梁を用い、柱を省略し空間を広くするなどの空間構成をもった建築物となっています。

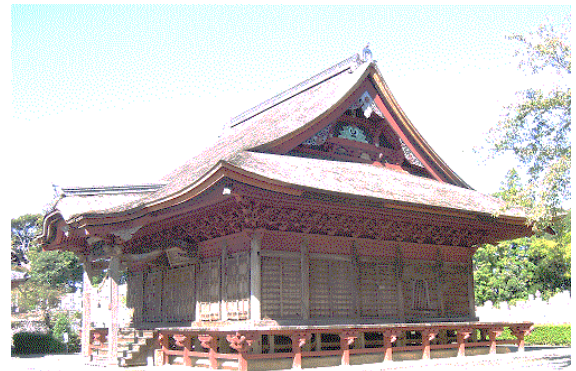
尊永寺の小院、正法院の正門だった尊永寺黒門(市指定)は、宝永8年(1712年)建立の檜皮葺四脚門です。寛政8年(1796年)に建立された茅葺屋根の雲谷寺東司(市指定)は入母屋造妻入の建築で、天正14年(1586年)建立と伝わり、貞享4年(1687年)の修繕記録が残る建福寺薬師堂(市指定)は、前進寺院から受け継いだ建物で、秘仏を安置する遠江四十九薬師巡りの第34番札所となっています。また、可睡斎護国塔(県指定)は、日露戦争戦没者供養のため、建築家伊東忠太の設計で明治44年(1911年)に建立されたものです。下部では室内がレンガ積み、外面は花崗岩積、上部塔屋は鉄筋コンクリート製ドーム建築です。

旧東海道沿いには、地方医療の場として近隣住人に広く知られていた旧澤野医院(市指定)の病棟・居宅・渡り廊下・洋館が軒を重ねています。

《登録有形文化財(建造物)》

国により登録されている建造物としては、日本国
有鉄道二俣線(現:天竜浜名湖鉄道)の一宮川に架かる橋梁として、鉄道省が設置した単線仕様の鋼製単桁橋及びコンクリート造二連桁橋の一宮川橋梁(橋長40m)があります。

昭和12年(1937年)に建立された木造2階建、
棧瓦葺入母屋造の大規模な迎賓施設である可睡斎瑞龍閣及びや、同時に建立された木造



西楽寺本堂(県指定)



可睡斎護国塔(県指定)

ひらやだて てんがいふう
平屋建の水洗で、天蓋風飾りや
らんま
欄間の細工など風雅な意匠を持つ
かすいさいとうす
可睡斎東司があります。

はらのやがわ
原野谷川右岸に南北棟で建ち、
もくぞうにかいだてようふうがいかん
木造二階建洋風外観で、戦後復興
期の各種学校校舎の特徴を残す
きゅうなかつむらようさいがくいん
旧中村洋裁学院が登録され保存と
活用が図られています。



一宮川橋梁（登録文化財）

《美術工芸品》

絵画として指定されている2件は、えんしゅうなんがは
遠州南画派絵師の筆による（あだちせつざんひつけんぼんぼくしよ しよく
足立雪山筆絹本墨書）蜀
さんどう
棧道（図）（市指定）と、毎年4月の涅槃会において本尊前に御開帳される、（しほんさいしきじくそう
紙本彩色軸装）
ようふくじしやかねはんず
用福寺釈迦涅槃図（市指定）は、正徳4年（1714年）の製作で、やまなしなかまち
山梨中町の絵師、ふじしたまたしろう
藤下又四郎
もりふさ
守房の筆によるものです。

彫刻は11件です。仏像は木造だけではなく鉄や銅などの金属造の仏像もあり、製作時期
ごとに見ると、平安期では、さいらくじ もくぞうやくしによらいざぞう
（西楽寺）木造薬師如来坐像（県指定）、さいらくじもくぞう あみ だによらい
坐像及び両脇侍坐像（県指定）と、がんしょうじもくぞう しょうかん ぜおん ぼさつ
（岩松寺木造）聖観世音菩薩（立像）（市指定）、（がんしょうじもくぞう
不動明王二童子立像（市指定）、（りょうきょうじもくぞう あみ ださんぞん ざ
了教寺木造）阿弥陀三尊（坐）像（市指定）、（うめやまはちまんじんじゃ
梅山八幡神社
もくぞう あみ だによらいざぞう
木造）阿弥陀如来坐像（市指定）があります。鎌

倉期では、（そうえんじでつぞう やくしによらいりゅうぞう
宗円寺鉄造）薬師如来立像（市指
定）、室町期では、ちやうせんじ もくぞう やくしによらいりゅうぞう
長泉寺（木造）薬師如来立像
（市指定）、（しょうしゅうじもくぞう じゅういちめんかんのん ぼさつ ざぞう
松秀寺木造）十一面観音（菩薩）坐像
（市指定）、江戸期では、さいらくじ どうぞう ふどうみょうおう
西楽寺（銅造）不動明王
りゅうぞう
立像（市指定）があります。仏像以外では、室
町期の作で、しし
獅子の頭部とみられる（とみさと
富里
おうじじんじゃもくぞう ししがしら
王子神社木造）獅子頭（市指定）があります。



西楽寺木造阿弥陀如来坐像及び両脇侍坐像（県指定）

工芸品は8件です。鎌倉期の密教修法で使用される法具（ほうぐ そんえいじ こんどうごしゅれい
尊永寺）金銅五種鈴（重文）は、
そんえいじ
尊永寺にのみ残された意匠のものです。

また、はまなぐんはしもと きょうおん じぼんしょう
浜名郡橋本の教恩寺梵鐘として文明6年（1474年）造られたことが銘文に陽刻され
ている（しょうふくじどうぞうちゅうぞうねんなどようこく ぼんしょう
正福寺銅造鑄造年等陽刻）梵鐘（県指定）や、永正15年（1518年）に（さやぐんとんべごう
佐野郡富部郷

の西宮八王子大明神の梵鐘として造られたことが陽刻された(可睡斎銅造鑄造年等陰刻)梵鐘(県指定)、大永2年(1522年)に堀越氏延(今川了俊の昆孫)が遠江国分寺薬師堂に寄進したことが陰刻される岩松寺の鰐口(県指定)、天正17年(1589年)の原川浅間宮(銅造鑄造年等陰刻)鰐口(市指定)及び、室町期と推定される(銅造小型)鰐口(市指定)があります。



金銅五種鈴（重文）

また、鮮緑色の灰釉が施釉され、1250年頃(古瀬戸編年前期Ⅲ期)の製作と推定される(鶴松遺跡出土)

古瀬戸黄釉瓶子(市指定)、明治期の久津部村が、学制発布以前に開校した学校の設立に係る趣意書や、時間割等を印刷するために使った用行義塾版木(市指定)があります。

書跡・典籍・古文書は13件です。道元が弟子の了然(尼僧)に残したと伝わる紙本墨書示了然道者法語(県指定)、元龜3年(1572年)駿河(現在の静岡県中部)から遠江(現在の静岡県西部)を経て三河(現在の愛知県東部)方面へ進軍する途上で、可睡斎に与えられた発武田信玄の竜の朱印状(市指定)は、武田家勘定奉行であった市川(昌房)宮内助が信玄の意を受けて発給したものです。

西楽寺には、豊臣秀吉から寺領安堵状が天正18年(1590年)に発給されました。その後、豊臣秀吉から小梅や浜納豆、山椒などの献上品に対する礼状の西楽寺(豊臣秀吉)朱印状(市指定)が残されています。また、近世初頭の領民支配の状況を伝える深見村・梅山村宛ての徳川(家)七ヶ条定書(市指定)、拾歩寺御朱印状(市指定)があります。

袋井宿や本陣に関わる文書として、宿駅の認定にあたって徳川頼信家臣から発給された地子免除書(税免除通知書)である袋井宿開設お墨付(市指定)や、本陣開業を許可するための実績(宿泊者)記録であったと見られる袋井本陣御宿帳(市指定)があります。

このほか、近世村落の納税関係記録遠江国山名郡川井村水帳(市指定)、辰年宇苅馬谷村可納御年貢割付の書状(市指定)、遠州周智郡宇苅之内馬ヶ谷村御検地水帳(市指定)、文化六年菩提新田已改茶畑検地帳・文化十三年菩提新田子改茶畑検地帳(市指定)、村南側の堤防の取り扱いに関する裁定書堤上置井道置土についての裁定書(市指定)や、当市出身書家による(川村驥山筆紙本墨書軸装)孝経(市指定)があります。

考古資料は4件です。5世紀中頃の木棺直葬の埋葬施設をもつ方墳から出土した鉄製三角板革綴短甲や鉄製三角板革綴衝角付冑とともに、武器武具、農工具を含む副葬品が出土した五ヶ山B2号墳出土遺物(県指定)、現在は愛野向山古墳群B支群27号墳と呼称さ

れる円墳から、開墾時に出土した五軒平古墳出土五鈴鏡(市指定)、弥生時代中期の方形周溝墓主体部から出土した細型硬質緑色凝灰岩製(262点)の(北山遺跡出土)管玉(市指定)及び、方形周溝墓から出土した(団子塚遺跡出土)鉄剣(市指定)があります。



袋井宿絵図(市指定)

歴史資料は6件です。江戸前期の袋井宿の姿を描いた(紙本彩色巻子本装)袋井宿絵図(市指定)、江戸後期中泉代官が宿内にある茶屋の主人にあたえた梅屋敷の看板(市指定)があります。

また、上嶽寺には、最後の久野城主北条氏重の葬列を記録した(紙本墨書巻子本装)北条出羽守氏重移葬葬列図(市指定)があります。海蔵寺には、遠江今川氏初代の今川貞世(了俊)の筆により古今和歌集から4首を記した(紙本墨書軸装)今川了俊歌切(市指定)があり、後の時代の極書(鑑定書)も付されています。

近世東海道沿いの妙日寺境内は、日蓮両親の屋敷跡と伝え、本堂東側に建つ恩親殿奥の墓所には愛野地区下石野の正覚寺から移された歴代貫名氏の供養塔群とともに、柳生宗矩寄進による日蓮両親の供養塔妙日尊儀妙蓮尊儀供養塔(市指定)〔正保3年(1646年)建立〕が祀られています。

また、市域南部の近世期33カ村において、貞享3年(1686)年に起きた中畦堤南北村落間での水除堤争論に係る裁定書(紙本彩色軸装)裁許状絵図(4点)(市指定)があります。

(2) 民俗文化財

有形民俗文化財は4件です。庶民信仰の実像を今に伝える深見村の長泉寺薬師如来立像附(属)の遠江四十九薬師像(市指定)や、小山村の住人、大宥が六十六部廻国聖(勧進の巡礼者)として法華経納経のため、全国巡礼地522箇所を、元文4年(1739年)から6年をかけて巡った記録である六十六部日本廻国納経帳(市指定)、文政13年(1830年)見取村で伊勢神宮参詣旅費を記録した(伊勢大神宮おかげ)御蔭接待寄附帳(市指定)、上山梨村内でかつて山梨様として信仰され、現在は用福寺境内に移されている橘逸勢供養塔(市指定)があります。

無形民俗文化財は5件です。正月の予祝行事として尊永寺で行われている法多山田遊祭(七段)(県指定)と、国本の富士浅間



源朝長公御祭礼(市指定)

宮田遊び祭(市指定)、盆行事として三川友永で行われている源朝長公御祭礼(市指定)と、木原の念仏衆によって行われる木原大念仏(市指定)、そして、12月のコトヨウカ行事として浅名岡山の子どもたちの手によって行われる、疫神祓い行事岡山(集落)の山の神祭り(市指定)があります。

(3) 記念物

遺跡は10件です。古墳時代後期6世紀前半期で、静岡県西部を代表する横穴式石室を持つ円墳である大門大塚古墳(県指定)、発掘調査によって古墳時代の豪族居館跡が発見された古新田遺跡(市指定)や、保元・平治の乱から治承・寿永の乱までの時代変革期の人物と家臣の伝承を伝える源朝長墓(供養塔)(市指定)が、積雲院の山門前に祀られています。

また、戦国期には高天神城攻略の際に徳川家康に利用されたと見られ、駿河伊達氏が一時居留していた屋敷跡と推定される十二所居館跡(市指定)があります。

戦国時代に築城された久野城址(市指定)や、馬伏塚城跡(市指定)の城主小笠原氏清供養塔(市指定)が、了教寺境内に祀られています。

江戸期の信仰を物語る万松院の切支丹灯籠(市指定)や、高潮から村人が避難する場所として造られた人工の丘築山である大野命山・中新田命山(県指定)、ベトナムの民族運動家

ファン・ボー・チャウ(1867～1910年)が当地出身の医師への感謝の思いを残すため、東浅羽村の村人らとともに大正7年(1918年)常楽寺境内に建立した浅羽佐喜太郎公纪念碑(市指定)があります。

記念物は4件です。植物では、重要文化財油山寺山門前に立ち、弘法大師伝説を伝える油山寺の御霊スギ(県指定)は、樹皮が松



久野城址 (市指定)

のように見えることで知られています。

海岸に近い個人宅にあるマキの木(市指定)、イマメ(ウバメガシ)の木(市指定)のほか、シイ・タブノキ・クスノキ・クロガネモチなどが自生する梅山八幡神社の森(市指定)は、「静岡県のお宮の森・お寺の森100選」に選ばれ、ふるさとに残したい森として約4,600㎡の範囲が指定されています。

指定等文化財一覧表（令和4年4月1日現在）（国指定重要文化財6件、県指定16件、市指定60件 計82件）（国登録有形文化財4件）

指定種別		番号	名 称	指定年月日	所 在 地	所 有 者
国指定文化財	有形文化財	建造物	1 富士浅間宮本殿	S25. 8. 29	国本 992	(宗) 富士浅間宮
			2 油山寺山門	S25. 9. 17	村松 1	(宗) 油山寺
			3 油山寺三重塔	S25. 9. 17	村松 1	(宗) 油山寺
			4 油山寺本堂内厨子	S25. 9. 17	村松 1	(宗) 油山寺
			5 尊永寺仁王門	S25. 9. 17	豊沢 2777	(宗) 尊永寺
県指定文化財	有形文化財	工芸品	6 金銅五種鈴	S31. 6. 28	豊沢 2777	(宗) 尊永寺
			7 油山寺本堂	S42. 10. 11	村松 1	(宗) 油山寺
			8 油山寺書院	S44. 5. 30	村松 1	(宗) 油山寺
			9 可睡斎護国塔	S53. 3. 24	久能 2913-4	(宗) 可睡斎
			10 西楽寺本堂	S55. 11. 28	春岡 384	(宗) 西楽寺
		建造物	11 油山寺方丈	S58. 9. 27	村松 1	(宗) 油山寺
			12 (西楽寺) 木造薬師如来坐像	S31. 1. 7	春岡 384	(宗) 西楽寺
			13 西楽寺木造阿弥陀如来坐像及び両脇侍坐像	H 8. 11. 18	春岡 384	(宗) 西楽寺
			14 (正福寺銅造鑄造年等陽刻) 梵鐘	S31. 10. 17	上山梨 1015	(宗) 正福寺
			15 (可睡斎銅造鑄造年等陰刻) 梵鐘	S45. 6. 2	久能 2913-1	(宗) 可睡斎
		工芸品	16 岩松寺の鰐口	S31. 10. 17	浅羽 3598	(宗) 岩松寺
			17 紙本墨書示了然道者法語	S45. 6. 2	久能 2913-1	(宗) 可睡斎
			18 五ヶ山 B2 号墳出土遺物	H15. 3. 12	新屋 1-1-1	袋井市
	民俗文化財	無形民俗文化財	19 法多山田遊祭 七段	S35. 4. 15	豊沢 2777	法多山田遊祭保存会
			20 大門大塚古墳	H 5. 3. 26	高尾 776-1	袋井市
市指定文化財	記念物	遺跡	21 大野命山・中新田命山	H19. 3. 20	大野 3435・中新田 262	寄木神社(大野) 総代・寄木神社(中新田) 総代
			22 油山寺の御霊スギ	S27. 4. 1	村松 1	(宗) 油山寺
	有形文化財	建造物	23 白山権現社	S51. 9. 31	高尾 222	(宗) 赤尾洪垂神社
			24 雲谷寺東司	S60. 3. 19	大谷 1337	(宗) 雲谷寺
			25 尊永寺黒門	H 1. 4. 1	豊沢 2777	(宗) 尊永寺
			26 建福寺薬師堂	H 6. 3. 28	川会 1083	(宗) 建福寺
			27 旧澤野医院	H11. 4. 23	川井 444-1	袋井市
			28 (足立雪山筆絹本墨書) 蜀棧道(図)	S53. 11. 9	下山梨	個人
			29 (紙本彩色軸装) 用福寺釈迦涅槃図	H 6. 3. 28	上山梨 3039	(宗) 用福寺
		彫刻	30 (宗門寺鉄造) 薬師如来立像	S58. 12. 22	川井 144-1	(宗) 宗門寺
			31 長泉寺(木造) 薬師如来立像	S60. 3. 19	深見 1730	(宗) 長泉寺
			32 (岩松寺木造) 聖観世音菩薩(立像)	S57. 11. 3	浅羽 3598	(宗) 岩松寺
			33 (岩松寺木造) 不動明王二童子立像	H13. 11. 1	浅羽 3598	(宗) 岩松寺
			34 (了教寺木造) 阿弥陀三尊(坐) 像	H13. 11. 1	浅名 1342	(宗) 了教寺
			35 梅山八幡神社木造) 阿弥陀如来坐像	H17. 1. 28	梅山 1	梅山八幡神社氏子総代会
			36 (富里王子神社木造) 獅子頭	H17. 1. 28	富里 700	王子神社氏子総代会
			37 (松秀寺木造) 十一面観音(菩薩) 坐像	H17. 1. 28	富里 453	松秀寺檀家総代会
			38 西楽寺(銅造) 不動明王立像	H24. 2. 24	春岡 384	(宗) 西楽寺
			39 (鶴松遺跡出土) 古瀬戸黄釉瓶子	S51. 9. 21	新屋 1-1-1	袋井市
	工芸品		40 用行義塾版木	S56. 3. 5	広岡 2317-1	市立袋井東小学校
			41 原川浅間宮(銅造鑄造年等陰刻) 鰐口	S56. 3. 6	国本 964	(宗) 富士浅間宮
			42 (銅造小型) 鰐口	S58. 11. 3	浅羽	個人
			43 (川村驥山筆紙本墨書軸装) 孝経	S53. 11. 9	豊沢	個人
		古文書	44 袋井宿開設お墨付	S49. 10. 24	袋井	個人
			45 袋井本陣御宿帳	S49. 10. 24	新屋 1-1-1	袋井市
			46 遠江国山名郡川井村水帳	S49. 10. 29	新屋 1-1-1	袋井市
			47 堤上置井道置土についての裁定書	S53. 11. 9	小山	小山自治会
			48 武田信玄の毫の朱印状	S57. 2. 8	久能 2915-1	(宗) 可睡斎
			49 辰年宇羽馬谷村可納御年貢割付の書状	S58. 12. 22	宇刈	個人
			50 (深見村宛) 徳川(家) 七ヶ条定書	S58. 12. 22	新屋 1-1-1	袋井市
			51 文化六年菩提新田已改茶畑地帳・文化十三年菩提新田子改茶畑地帳	S58. 12. 22	豊沢	個人
	考古資料		52 遠州周智郡宇羽之内馬ヶ谷村御検地水帳	S58. 12. 22	宇刈	個人
			53 西楽寺(豊田秀吉) 朱印状	S62. 5. 11	春岡 384	(宗) 西楽寺
			54 (梅田村宛) 拾歩寺御朱印状(徳川七ヶ条定書)	S56. 11. 3	梅山	梅山自治会
			55 五軒平古墳出土五鈴鏡	S57. 2. 8	愛野	個人
			56 (北山遺跡出土) 管玉	H17. 1. 28	新屋 1-1-1	袋井市
		歴史資料	57 (団子塚遺跡出土) 鉄剣	H28. 1. 28	新屋 1-1-1	袋井市
			58 (紙本彩色巻子本装) 袋井宿絵図	S53. 11. 9	新屋 1-1-1	袋井市
			59 梅屋敷の看板	S57. 2. 8	新屋 1-1-1	袋井市
			60 (紙本墨書巻子本装) 北条出羽守氏重移葬葬列図	S62. 5. 11	国本 499	(宗) 上嶽寺
			61 (紙本墨書軸装) 今川了俊歌切	S62. 5. 11	堀越 764-1	(宗) 海蔵寺
国登録有形文化財	有形民俗文化財	無形民俗文化財	62 妙日尊儀妙蓮尊儀供養塔	S62. 5. 11	広岡 2340	(宗) 妙日寺
			63 (紙本彩色軸装) 裁許状絵図(4 点)	S58. 11. 3	松原	個人
			64 長泉寺薬師如来立像附(属の) 遠江四十九薬師像	S62. 5. 11	深見 1730	(宗) 長泉寺
			65 (伊勢大神宮おかげ) 御蔭接待寄附帳	S62. 5. 11	見取	個人
			66 橘逸勢供養塔	S62. 5. 11	上山梨 3039	(宗) 用福寺
			67 六十六部日本廻国納経帳	S62. 5. 11	小山	個人
			68 源朝長公御祭礼	S54. 10. 1	友永	源朝長公御祭礼保存会
			69 木原大念仏	S56. 3. 5	木原	木原大念仏保存会
			70 富士浅間宮の田遊び祭	H 1. 4. 1	国本 964	(宗) 富士浅間宮
			71 岡山(集落)の山の神祭り	H17. 1. 28	浅名	岡山山の神祭り保存会
	記念物	遺跡	72 久野城址	S54. 10. 1	鷺巣 1135	袋井市
			73 源朝長墓	S54. 10. 1	友永 648	(宗) 積雲院
			74 馬伏塚城跡	S55. 11. 3	浅名 1156	諏訪神社総代
			75 万松院の切支丹灯籠	S56. 11. 3	梅山 468-1	万松院檀徒総代
			76 十二所居館	H10. 1. 27	諸井 452-20	袋井市
			77 浅羽佐喜太郎公記念碑	H10. 7. 31	梅山	個人
			78 古新田遺跡	H17. 1. 28	浅羽 2641-1	袋井市
			79 小笠原氏清供養塔	H17. 1. 28	浅名 1342	了教寺檀家総代会
			80 梅山八幡神社の森	S60. 11. 3	梅山 181	梅山八幡神社総代
		植物	81 マキの木	S60. 11. 3	松原	個人
			82 イマメ(ウバメガシ)の木	S60. 11. 3	松原	個人
国登録有形文化財	有形文化財	建造物	1 (天竜浜名湖鉄道) 一宮川橋梁	H23. 1. 26	川会 504-12	天竜浜名湖鉄道株式会社
			2 可睡斎瑞龍閣	H26. 12. 19	久能 2915-1	(宗) 可睡斎
			3 可睡斎東司	H26. 12. 19	久能 2915-1	(宗) 可睡斎
			4 旧中村洋裁学院	H29. 5. 2	袋井 260-1	個人



指定文化財の分布図

2 未指定文化財の概要と特徴

本計画作成に際して、新たに市内全域のコミュニティセンター館長と自治会連合会長を通じて、未指定ではあるが地域にとって大切にすべき文化財の照会を行うとともに、市教育委員会事務局においても独自のリストアップを行い、策定協議会からの意見をいただきながら、別編の一覧のとおり2,989件を確認しました。

文化財の種別ごとに見ると、有形文化財は建造物が300件、美術工芸品が776件です。民俗文化財は有形民俗文化財189件、無形民俗文化財56件です。記念物では遺跡が272件、植物・地質鉱物が58件です。文化的景観は1,240件で、その他の伝承等が98です。

学園別に見ると、周南たちばな学園の山名小学校区 320 件、袋井北小学校区 297 件、今井小学校区 158 件、三川小学校区 250 件で、合計 1,025 件で全体の 34%、袋井あやぐも学園の袋井東小学校区 334 件、袋井西小学校区 242 件で合計 576 件 19%、南の丘学園の袋井南小学校区 226 件、高南小学校区 162 件で合計 388 件 13%、浅羽学園の笠原小学校区 166 件、浅羽東小学校区 144 件、浅羽南小学校区 383 件、浅北小学校区 262 件の合計 955 件 32% となり、市域全体に及ぶものが 45 件 2% となっています。

(1) 未指定の有形文化財

把握した未指定文化財の2,989件のうち有形文化財は1,076件と最も多く、その中でも、建造物が300件、美術工芸品776件で、このうち彫刻が702件と高い数値となっています。

建造物は、寺院、神社の建造物をはじめ、火の見櫓、隧道、防空壕等 300 件があります。

彫刻は、石造物として野仏や道標とともに、砂岩や花崗岩製、焼津産の当目石（緑色凝灰岩）製の中世五輪塔、砂岩製の小型の宝篋印塔や一石五輪塔、神社境内で見られる狛犬や手水鉢、鳥居、灯籠等のほか、第二次世界大戦の戦没者の慰霊と顕彰に係るものだけではなく、明治維新以降、日清・日露戦争をはじめとする戦争や事変に出征し戦死した地域出身の兵士のために建てられた忠魂碑や招魂碑等 702 件があります。



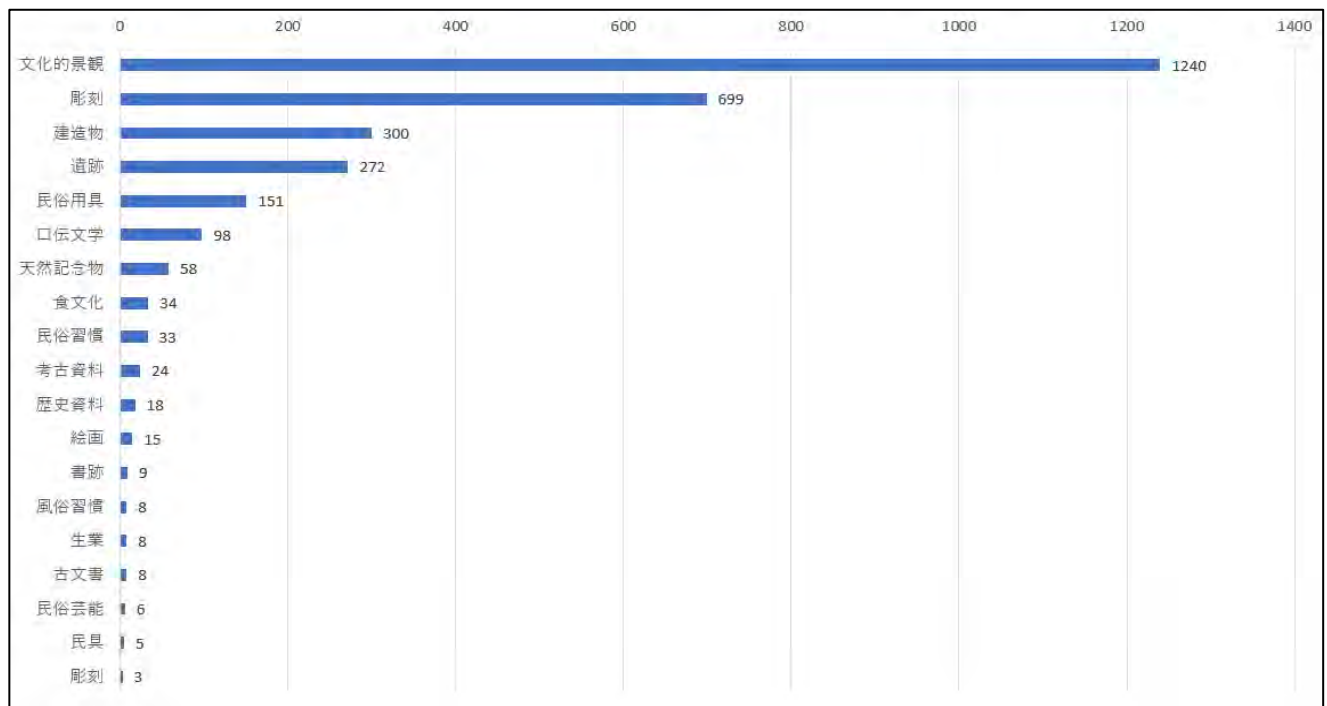
可睡斎井伊直義墓石



宇刈神社の手水鉢

類型・種別			周 南 た ち ば な 学 園				袋井あやぐも学園		南の丘学園		浅 羽 学 校 園				全 域	合 計
			周 南 中 学 校 区				袋 井 中 学 校 区		袋 井 南 中 学 校 区		浅 羽 中 学 校 区					
			山 名 小	袋 井 北 小	今 井 小	三 川 小	袋 井 東 小	袋 井 西 小	袋 井 南 小	高 南 小	笠 原 小	浅 羽 東 小	浅 羽 南 小	浅 羽 北 小		
有 形 文 化 財	建 造 物	45	37	16	26	40	33	25	12	24	14	13	14	0	300	
	美 術 工 芸 品	絵 画	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	15	0	15
		彫 刻	65	92	43	56	112	53	49	64	34	30	64	40	0	702
		工 芸 品	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		書 跡	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	8	0	9
		古 文 書	2	1	0	0	1	0	0	1	0	0	0	3	0	8
		考古資料	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	24	0	24
		歴史資料	0	0	1	0	0	0	6	1	1	2	2	5	0	18
民 俗 文 化 財	有 形	衣 装	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		民 具	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	4	5
		芸能用具	20	17	8	9	11	14	16	10	9	11	15	11	0	151
		風俗習慣	5	17	2	2	2	0	3	0	2	0	0	0	0	33
	無 形	食 文 化	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	33	34
		生 業	0	0	0	1	2	0	0	1	0	0	2	0	2	8
		風俗慣習	0	0	0	0	0	6	0	0	0	0	0	0	2	8
		民俗芸能	2	1	0	0	2	1	0	0	0	0	0	0	0	6
記 念 物	遺 跡	45	20	5	39	34	4	32	16	21	26	17	13	0	272	
	名 勝 地	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	植 物 ・ 地 質 鉱 物	14	5	4	4	10	4	0	6	6	2	4	1	0	58	
文 化 的 景 観		115	100	75	104	101	108	84	46	65	49	263	126	4	1,240	
そ の 他	伝 承	9	7	4	9	18	19	11	3	4	10	2	2	0	98	
合 計			320	297	158	250	334	242	226	162	166	144	383	262	45	2,989

収集した未指定文化財の件数内訳一覧



絵画・書跡では、市出身の書家や画家等による絵画15件、書跡9件があります。

歴史資料では、東海道線袋井駅から森町までの区間で全長13.7km／全16駅の路線の秋葉線や車両等、御前崎市経由で藤枝市大手駅までの区間で全長64.6km／全50駅の路線の駿遠線(軽便鉄道・軌道幅762mm)関係の鉄道関係資料があります。

古文書では、仲井用水関係相論文書群や寺院文書群等の8件があります。

考古資料では、発掘調査において確認された古墳時代の鉄製甲3領や、茶畑開墾中に出土した平治2年(1160年)銘梵鐘等の考古資料24件があります。

(2) 未指定の民俗文化財

有形民俗文化財では、風俗慣習として秋葉信仰に関わる燈籠や道標などが38件あります。

民具は、水稻耕作や茶業生産など、地域の農業を支えた道具が5件あります。

芸能用具189件のうち、秋季祭等での曳き物(御所車型で市中央部から北側にかけては森町型の二輪屋台、市南部の東側が一本柱万灯型の横須賀型二輪のネリ、南部西側は大唐破風様式掛塚型四輪の屋台)等が135台と最も多く、山梨祇園祭6台、秋季祭129台(市内の秋季祭は統一した祭典ではなく、秋季

に行われる各地区の神社祭事の付け祭りとして、各自治会が運営する曳き物祭り)があります。

当地でもっとも古い曳き物は、「川井山(読み不明)」と呼ばれた川井村(現在の袋井市川井)の屋台の記録で、天保13年(1842年)に現在の掛川市谷坂地区の宮村から買い入れ、高欄や脇障子などを取り付け、森町型風に改装し、川井十二所神社と白髭神社の祭事に曳き廻したと伝えられています。総漆塗りで蒔絵が施してあり、当時では大変豪華な曳き物であったと言われている。

その後、川井村の東隣にある袋井宿の本町や新町においても、曳き物祭りが始まり、屋台は「鳳冠車(読み不明)」と呼ばれた曳き物であったと伝えていますが、詳細な記録が無く、詳しいことはわかっていません。



新屋の常夜燈



山梨祇園祭の森町型屋台



横須賀型ネリ



掛塚型屋台

無形民俗文化財では、地域食として醤油味で具のない炊き込みご飯で、縁起物として食べられるほか、給食にも登場する「おさくらご飯（さくらめし）」や、地元産のお米（傷米や割れた米）を使って作られた「おはたき餅」とともに、袋井南部地域で秋季祭時の御馳走として食べられている串芋等、当地において特徴的な食文化が34件あります。

文化10年(1813年)、大阪の豪商^{ますや}升屋の四代目当主平右衛門こと片山^{かたやましげよし}重芳が記した『仙台下向日記』^{せんだいがこうにつき}には、袋井宿の本陣に宿泊し朝食に出された^{こんだて}献立が細かく記されていて、「^{たまご}玉子ふわふわ」の文字が見えます。

無形の風俗慣習2件のうち、新築住宅棟上げや秋季祭での福を分け与えるという意味で行われている「もち投げ(撒き)」は、餅を撒く主催者側より拾う側が熱心で、当地の特徴的な行事の一つとなっています。



再現された「たまごふわふわ」



おさくらご飯

(3) 未指定の記念物

把握した記念物では遺跡272件と、植物・地質鉱物など58件があります。

遺跡は、縄文時代の台地上の集落跡や、海岸近くの貝塚を持つ集落跡、水稻耕作を主な生業としていたと見られる沖積地自然堤防上の弥生時代集落などがあります。

また、丘陵地に造られた古墳群^{おうけつぼぐん}や横穴墓群とともに、微高地や段丘上の集落跡^{はにわ}、埴輪や須恵器を生産した窯跡があります。

古代の郡衙推定地、中世の武家居館^{ぐんが}や久野城^{くの}や馬伏塚城^{まむしづか}のような城跡、鎌倉時代後期に街道の宿駅として成立し、江戸時代に東海道53次の宿として繁栄した袋井宿場跡^{ひがしほんじん}（東本陣^{あと}跡）などがあります。

このほか近世の旗本陣屋跡や湖沼跡、寺社跡、近世東海道及び宿場施設跡等とともに、明治22年(1889年)全線開通時のものと見られる東海道鉄道関係の駅施設(プラットフォーム)など、秋葉線^{あきはせん}や駿遠線^{すんえんせん}の鉄道施設跡があります。

植物は、スギやイマメ等の古木があります。地質鉱物は、約200万年前の新生代第四紀更新世^{しんせいだいだいよん き こうしん}前期前半期(ジェラシアン期)の示準化石となっている大日砂層^{だいにちさそう}の海生軟体動物化石群^{かいせいなんたいどうぶつかせきぐん}(巻貝、二枚貝、クモヒトデ類、ウニ類等)があります。

袋井市ではこの化石露頭地を宇刈里山公園^{うがりさとやま}として整備しました。公園には地層断面の露頭展示をはじめ、市民が里山の自然史を意識できるよう工夫をこらした点や、公園整備に

至る過程で地元自治会とワークショップを繰り返し、地域の地質遺産を住民とともに再発見した点などが、地質学を社会に浸透させるモデルケースとして、平成25年(2013年)に日本地質学会から表彰を受けるとともに、^{かけがわそうぐん だいにちさ そう}掛川層群(大日砂層)の貝化石群が、静岡県の石(化石)として選定を受けています。

(4) 文化的景観

景観としては、市内南部では標高差が少なく、江戸時代以前まで蛇行して流れていた河川の氾濫を食い止めるため、^{ふるづつみ あさぼおがこいづつみ}古堤や浅羽大囲堤を造り大規模な河川改修が行われたことに加え、^{いのちやま たかしお}命山を築き高潮の被害から人々の命を守る中で、^{こくそうちたい}豊かな穀倉地帯が形成されました。この歴史の中から生まれた水田風景である「とうもん」や、水田への導水と、南流する中小河川が多いことから、日常生活の中で多くの橋梁を使用して生活をしている地域であることの特異性を示す橋梁の風景は1,064件と突出して多く、建造物としてではなく、地域を特徴付ける景観として捉えました。



「とうもん」の風景



市道太田村松線新屋橋

また、用水施設の2件は、大井川おおいがわと天竜川てんりゅうがわから供給される灌漑用水です。国本くにもと、広岡地域の水田に水を供給している大井川用水おおいがわは、県内でも有数の規模を誇る用水路で、一級河川大井川おおいがわの水を水源とし、国営大井川農業水利事業にて昭和22年～43年(1947年～1968年)にかけて整備された灌漑用水です。

一方、市内の三川みつかわ、山梨、今井、袋井西、浅羽東あさぼ、浅羽北あさぼ、浅羽南地区へ水を供給している磐田用水いわたは、天竜川本川に建設された重力式コンクリートダムふなざらの船明ダムから取り入れ、社山やしろやまを越え市北部から南流して穀倉地帯を潤しています。

用水施設についても、市内を縦横に流れ生活に直結した身近な存在となっていることから、構造物としてではなく、用水の風景として捉えました。

そのほか、北部の茶葉畑の中を快走する民間鉄道の風景や、河川堤防の桜並木等があります。

(5) その他

失われつつある市内各所で語り継がれてきた伝承(昔話)が98件あります。

第3章 袋井市の歴史文化の特徴

袋井市では、自然・地理的環境と社会、歴史によって育まれてきた歴史文化の特徴について、次の4項目をあげることができます。

歴史文化の定義について

歴史文化とは、「地域に固有の風土の下、先人によって生み育まれ、時には変容しながら現代まで伝えられてきた知恵・経験・活動等の成果及びそれが存在する環境を総合的に把握した概念」（「文化財保存活用地域計画パンフレット」2021年文化庁）

1 川がもたらす豊かな恵みと歴史文化

市内には太田川や原野谷川を代表とする大小18余りの河川が南北に流れ、豊富な水量は地域の生活基盤を成すとともに、川の周辺には多くの自然堤防が形成され、弥生時代以降、人々の生活の場となり稲作の発展をもたらしました。東海道や秋葉街道もこの自然堤防上に立地しており、人々の往来をもたらしました。

おおたがわ はらのやがわ
太田川・原野谷川沿いには河岸段丘が見られ、集落立地するほか茶畑に利用され、地域の特産物となっています。

ア 市内を南北に流れる太田川・原野谷川を中心に、豊かな平野が形成されました。

イ 弥生～中近世の開発によって、豊かな穀倉地帯が生み出されました。

ウ 川は豊かに水をもたらす一方、農業用水としての扱いを巡って、しばしば地域内に争いが起こりました（「なかいようすい仲井用水」関係相論文書・「かんけいそろうもんじょ中畦堤」関係相論文書など）。

エ 特に、市内の沿岸部においては、「とうもん」と呼ばれる水田が一面に広がる田園風景を生み出しました。

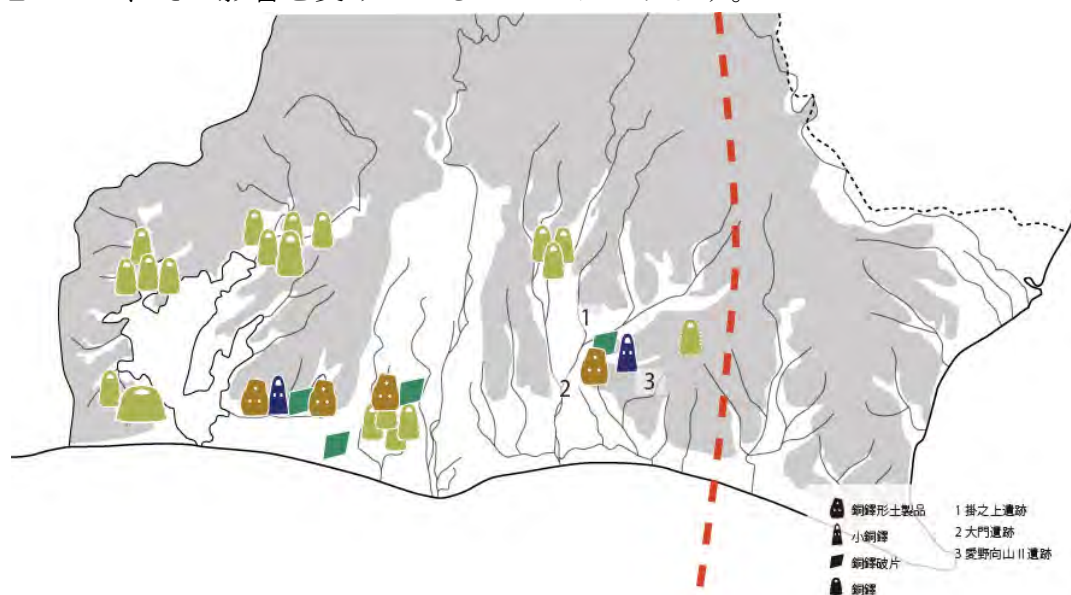


市内遠景（南から）

2 「境の地」における往来が生み出す歴史文化

東西方向と南北方向の道や河川が交わる袋井市は古代より、人や物が行き交うとともに、それらにまつわる文化が生まれ、伝わり、交わりながら「境の地」を形成しました。

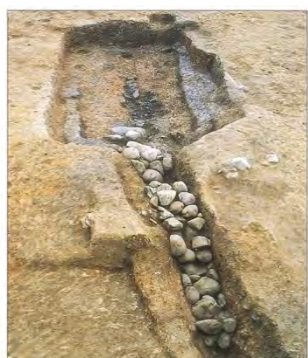
ア 弥生時代の銅鐸^{どうたく}については、完形の銅鐸出土としての東限は磐田市^{いわたし}です（江戸時代の記録に掛川市内での出土あり）。市内では、掛之上遺跡^{かけのうえ}で銅鐸片^{どうたく}、愛野向山遺跡^{あいのむかいやま}では小銅鐸^{しょうどうたく}、大門遺跡^{だいもん}の近年の調査では銅鐸形土製品^{どうたくがたどせいひん}が出土するなど、銅鐸文化の東の境の地として、その影響を受けていることがわかります。



静岡県西部における銅鐸の出土地

イ 古墳時代後期には、横穴式石室^{よこあなしきせきしつ}が市内全域に見られる一方、横穴墓^{おうけつぼ}は宇刈・春岡地域^{うがり はるおか}、高尾地域^{たかお}、国本地域^{くにもと}に集中して確認されています。横穴墓は、県内西部では北隣の森町^{もりまち}、東隣の掛川・菊川市域^{かけがわ きくがわ}に多く分布しており、袋井市以西では極端にその数が減ります。横穴式石室と横穴墓の埋葬形態の分布域の境を示す地域です。

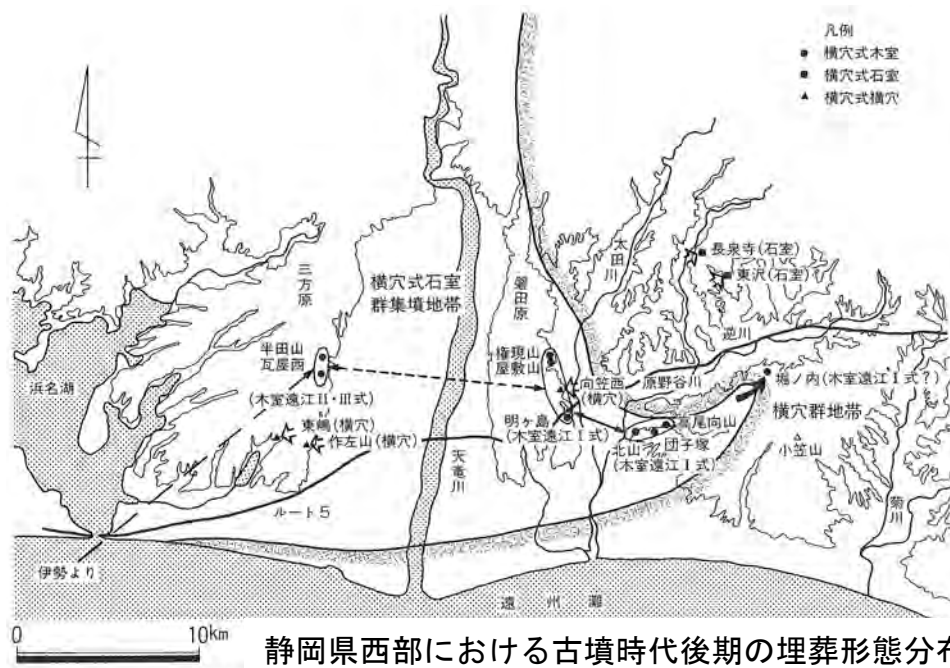
加えて、横穴式木室^{よこあなしきもくしつ}という特殊な埋葬形態^{まいそうけいたい}の分布も、磐田原台地東縁^{いわたばらだいち}と袋井駅南側の河岸段丘^{かがんだんきゅうじょう}上の丘陵に限られ、東海地域での分布の境を示しています。



団子塚G群 1号主体部



春岡横穴群



静岡県西部における古墳時代後期の埋葬形態分布図

ウ 古代東海道の成立とともに、当市を含めた現在の静岡県西部域は、遠江国として成立します。この地は東国との境となる地域として、遠江と近江が対比されるような距離的な認識を、都のある畿内地域から持たれていました。

エ 市内を東西に横断する東海道は東西地域から、南北を縦断する秋葉街道・秋葉線(袋井市～森町)・駿遠線(袋井市～藤枝市・総延長64.6kmは日本一の軽便鉄道)は、南北地域からの人と文化の往来をもたらしました。

現存する唯一の秋葉線車両（袋井市所蔵）



資料：「駿遠線・秋葉線の思い出」

3 秋葉信仰と街道の歴史文化

秋葉山にまつわる秋葉信仰は、静岡県西部に留まらず東海、更には全国へと広がりを見せました。信仰の広がりには参拝のための街道を発達させ、人々の往来が増加するなかで、街道沿線に秋葉信仰にまつわる祭礼や風習を育みました。

ア 秋葉山は、浜松市天竜区春野町の標高866mの山頂に築かれた山岳修行の霊場です。江戸時代には聖観音を祀る秋葉寺と、秋葉大権現を祀る秋葉社の両者が存在し、修験者三尺坊が護神とされ、江戸時代の後期には火伏のご利益で注目されるようになり、多くの参拝者が訪れました。参拝者は県内に止まらず、愛知県の御油や吉田宿方面からの参詣道が発達しました。

市内においても、袋井宿から北に向かい、山梨地区から三川地区を抜けていく所謂秋葉街道が発達しました。

イ 街道の道中には、信仰の発達とともに地域の安全や火防祈願するため常夜燈が各地に整備され、市内でも現在まで石製の灯籠や、木製の覆屋を備えたものなどを含め49基が残り、新屋地区では秋葉講が僅かに残っています。



(袋井市 永井宏親氏蔵)

「秋葉山参詣道法図」

秋葉山常夜燈MAP



4 自然災害への備えと復興の歴史

河川が形成した平野は豊かな恵みをもたらす一方、氾濫や地震発生時には軟弱地盤によって液状化をもたらし、沿岸部では平坦な地形が、高潮や河川氾濫による被害を増幅させるなど、人々は自然災害を幾度となく受け、復興してきました。

ア 市内の遺跡調査の成果から、古代より市内が地震の被害を受けてきたことが液状化の痕跡である噴砂^{ふんさ}の検出から明らかとなっています(第8章参照)。地割れや土地の沈下など大きな被害を受けながらも復興し、再び同じ土地に住み続けてきました。

イ 市内の沿岸部は現在では豊かな田園風景が広がっていますが、中世以降、河川の氾濫^{たかしお}や高潮^{なかうねづみ}の被害を受けながら、耕作域の拡大をしつつ発展してきました。中畦堤^{なかついで}や大囲堤^{おおいづみ}は、災害復興の過程から成立してきました。

ウ 江戸時代に、大囲堤の外側に位置する大野や中新田地区は、標高の低い環境とともに、地域の東側に細長く入り組んだ潟湖が存在し、遠州灘からの高潮の影響を強く受ける地域でした。こうした環境から、地域住民の命を守るための避難施設として命山^{いのちやま}(県指定文化財)が成立します。



第4章 袋井市の文化財の把握調査

1 既存の文化財の把握調査の概要

本市では、平成17年の合併以前に各市町村史の編纂事業が終了していて、古文書、考古資料、民俗、建築、仏像の確認調査が実施されています。

(1) 市史・町史編纂

旧袋井市は、昭和47年度(1972年度)から61年度(1986年度)にかけて市史編纂事業が実施され、旧浅羽町^{あさばちょう}においては、平成4年度(1992年度)から13年度(2001年度)にかけて町史編纂事業が実施されました。

これらの事業では、地域の歴史を明らかにするため、既存の文化財を類型ごと、または時代ごとに調査研究が進められ、袋井市史は通史編1冊、資料編5冊、図説1冊のほか、袋井市史資料8冊、袋井市郷土資料目録8冊が、浅羽町史では通史編1冊、資料編4冊、図説1冊、浅羽町所在文書目録7冊が刊行されました。

袋井市役所	昭和58年	(1983年)	『袋井市史 通史編』
袋井市役所	昭和59年	(1984年)	『袋井市史 史料編1 古代中世』
袋井市役所	昭和57年	(1982年)	『袋井市史 史料編2 近世』
袋井市役所	昭和55年	(1980年)	『袋井市史 史料編3 仲井用水』
袋井市役所	昭和58年	(1983年)	『袋井市史 史料編4 近代現代』
袋井市役所	昭和60年	(1985年)	『袋井市史 資料編 民俗・文化財・年表』
袋井市役所	昭和47年	(1972年)	『袋井市史資料』 第1巻
袋井市役所	昭和50年	(1975年)	『袋井市史資料』 第2巻
袋井市役所	昭和51年	(1976年)	『袋井市史資料』 第3巻
袋井市役所	昭和52年	(1977年)	『袋井市史資料』 第4巻
袋井市役所	昭和53年	(1978年)	『袋井市史資料』 第5巻
袋井市役所	昭和54年	(1979年)	『袋井市史資料』 第6巻
袋井市役所	昭和58年	(1980年)	『袋井市史資料』 第7巻
袋井市役所	昭和58年	(1980年)	『袋井市史資料』 第7巻別冊
袋井市役所	昭和61年	(1986年)	『目でみる袋井市史』
袋井市企画課	昭和40年	(1965年)	『市誌編纂資料報告綴』 1
袋井市企画課	昭和41年	(1966年)	『市誌編纂資料集』 第2巻「袋井の生いたち」
袋井市企画課 井伊谷喜一編	昭和42年	(1967年)	『市誌編纂資料集』 第3巻「ふるさと戦国史覚」
袋井市企画課 井井谷喜一編	昭和43年	(1968年)	『市誌編纂資料集』 第4巻「郷里雑誌」

袋井市企画課	川見駒太郎編	昭和44年	(1969年)	『市誌編纂資料集』第5巻	「明治時代における久勢地方の方言とアクセント」
袋井市教育委員会		平成2年	(1990年)	『袋井市郷土資料目録』	第1集
袋井市教育委員会		平成3年	(1991年)	『袋井市郷土資料目録』	第2集
袋井市教育委員会		平成4年	(1992年)	『袋井市郷土資料目録』	第3集
袋井市教育委員会		平成5年	(1993年)	『袋井市郷土資料目録』	第4集
袋井市教育委員会		平成7年	(1995年)	『袋井市郷土資料目録』	第5集
袋井市教育委員会		平成7年	(1995年)	『袋井市郷土資料目録』	第6集
袋井市教育委員会		平成8年	(1996年)	『袋井市郷土資料目録』	第7集
袋井市教育委員会		平成10年	(1998年)	『袋井市郷土資料目録』	第8集

浅羽町		平成12年	(2000年)	『浅羽町史 通史編』	
浅羽町		平成9年	(1997年)	『浅羽町史 資料編1 考古・古代・中世』	
浅羽町		平成8年	(1996年)	『浅羽町史 資料編2 近世』	
浅羽町		平成9年	(1997年)	『浅羽町史 資料編3 近現代』	
浅羽町		平成10年	(1998年)	『浅羽町史 民俗編』	
浅羽町		平成13年	(2001年)	『図説浅羽町史』	
浅羽町役場		平成4年	(1992年)	『浅羽町所在文書目録』	第1集
浅羽町役場		平成5年	(1993年)	『浅羽町所在文書目録』	第2集
浅羽町役場		平成6年	(1994年)	『浅羽町所在文書目録』	第3集
浅羽町役場		平成7年	(1995年)	『浅羽町所在文書目録』	第4集
浅羽町役場		平成8年	(1996年)	『浅羽町所在文書目録』	第5集
浅羽町役場		平成10年	(1998年)	『浅羽町所在文書目録』	第6集
浅羽町役場		平成12年	(2000年)	『浅羽町所在文書目録』	第7集

(2)映像記録

映像記録としては、昭和62年度から平成21年度にかけて把握調査を進める中で、15件の文化財を動画撮影し、記録化するとともに、市立図書館において資料を貸出、閲覧、保存すると共に、周知を進めてきました。

第1集	みなもとのともながこうごさいれい 源 朝 長公御祭礼	昭和62年度	(1987年度)
第2集	きはらだいねんぶつ 木原大念仏	昭和63年度	(1988年度)
第3集	ふじせんげんぐうたあそびさい 富士浅間宮田遊祭	平成元年度	(1989年度)
第4集	かさんぼこ 傘鉾	平成2年度	(1990年度)
第5集	遺跡の発掘はどうやるの	平成3年度	(1991年度)
第6集	すんえんせん 懐かしの駿遠線	平成4年度	(1992年度)

第 7 集	はったさんたあそびさい 法多山田遊祭	平成 4 年度	(1992年度)
第 8 集	さいらくじ 西楽寺本堂 平成大修理	平成5・6年度	(1993・1994年度)
第 9 集	いしのがた 石ノ形古墳発掘調査の記録	平成 7 年度	(1995年度)
第 10 集	あきはせん なつかしの秋葉線	平成 8 年度	(1996年度)
第 11 集	東海道 歴史の散歩道	平成 9 年度	(1997年度)
第 12 集	やまなし 山梨祇園祭	平成10年度	(1998年度)
第 13 集	はるおか 春岡遺跡群	～見えてきた古代のくらし～	平成12年度 (2000年度)
第 14 集	さわのいいんきねんかん 澤野医院記念館	- 解説ビデオ -	平成13年度 (2001年度)
第 15 集	保存修理の最前線	-重要文化財尊永寺仁王門修理の記録-	平成21年度 (2009年度)

(3) 団体及び個人による調査研究

古木については、袋井市文化協会が調査を行っていて、リストアップがなされるとともに、東海道沿線では、東海道の松並木を考える会によって松並木の実態調査が実施されました。

浅井喜作	昭和50年	(1975年)	『豊沢小史—古文書より見た宝野と菩提—』
浅井喜作	平成 6 年	(1994年)	『高部の御所の親王伝説を尋ねて』
浅岡芳郎	平成29年	(2017年)	『横須賀湊と前川運河・福田湊』
浅羽町西同笠自治会	平成 4 年	(1992年)	『西同笠の歴史シリーズ 2 わがふる里』
新屋の歴史を調べる会	平成25年	(2013年)	『新屋の歴史あれこれ』
安間 勉	令和元年	(2019年)	『久津部村の寺社』
太田恒夫	平成13年	(2001年)	『報徳遠譲社春岡中社 百余年の歩みをたどって』
北みちしるべの会	平成7年	(2005年)	『秋葉古道を訪ねて』
金原幸雄ほか	平成28年	(2016年)	『我がふる里の記憶』
小松原時雄	平成12年	(2000年)	『南区の歴史を顧みる』
近藤キクエ	平成21年	(2009年)	『高塚新道』
西郷勉	令和 4 年	(2022年)	『北原川の歴史探訪 故きを温ねて新しきを知ろう』
柴田静夫	平成21年	(2009年)	『報恩の碑』
柴田静夫	平成18年	(2006年)	『浅羽の今昔』
柴田静夫	昭和63年	(1988年)	『浅羽 我が郷土の今昔』
清水忠雄	平成5年	(1993年)	『三川風土記 ふるさと三川の記録』
清水忠雄	平成7年	(1995年)	『見取村覚書』
清水忠雄	平成13年	(2001年)	『見取村覚書』 第二集
清水忠雄	平成20年	(2008年)	『袋井北部地方の民俗』
鈴木 勝	平成10年	(1998年)	『春岡、少し前のこと』

鈴木 勝	平成10年	(1998年)	『村松武太夫家のこと』
鈴木 勝	平成13年	(2001年)	『村松武太夫家のこと』 その二
田中元峰	昭和63年	(1988年)	『袋井の石仏』
田中元峰	平成4年	(1992年)	『袋井の寺をたずねて』
田中元峰	平成14年	(2002年)	『袋井の歴史探訪 百六十余の袋井寺めぐり』
東海道の松並木を考える会	平成8年	(1996年)	『東海道の松並木調査報告書 一袋井市における松並木実態調査一』
東海道の松並木を考える会	平成18年	(2006年)	『東海道の松並木調査報告Ⅱ 一袋井市における松並木実態調査一』
鳴沢の会	平成4年	(1992年)	『昔を語る油山寺みちしるべ』
萩田俊一	令和3年	(2021年)	『不入斗 今昔』
白兔会郷土誌編集委員会	平成15年	(2003年)	『だいにち』
原田 和	昭和32年	(1957年)	『浅羽 風土記』
原田 和	昭和35年	(1960年)	『遠江資料集』
東公民館郷土研究クラブ ふるさと学級	昭和56年	(1981年)	『郷土の昔話』
日吉 浩	平成30年	(2018年)	『西別所散歩』
袋井市文化協会	昭和62年	(1987年)	『袋井の名木古木』
袋井市文化協会	平成21年	(2009年)	『袋井市の名木・古木』
袋井市立袋井北小学校	平成20年	(2008年)	『ふるさと 北地区』
ふるさと土橋研究会	平成25年	(2013年)	『ふるさと土橋』
ふるさと土橋研究会	令和4年	(2022年)	ふるさと土橋 別冊『遠江国 山名銀行』
方丈今昔の会	平成20年	(2008年)	『ふるさと方丈』
三川歴史研究会	平成9年	(1997年)	『三川の史話伝説』
山崎逸治	平成8年	(1996年)	『袋井町のれん散歩』

(4) 静岡県による調査

重要文化財や静岡県指定文化財建造物の修理工事報告書は公益財団法人文化財建造物保存技術協会が、旧日本国有鉄道や旧日本道路公団の開発事業に伴う埋蔵文化財の調査報告は事業主体が直接発行し、県事業による開発等に伴う埋蔵文化財発掘調査は、静岡県教育委員会や財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所・静岡県埋蔵文化財センターが実施し、発掘調査報告書を刊行しているほか、県主体による様々な文化財類型による^{しっかいちょうさ} 悉皆調査が実施され、次のような報告書が刊行されています。

有形文化財：静岡県教育委員会 昭和53年(1983年)『静岡県の近世社寺建築』

・油山寺本堂ほか袋井市3件、浅羽町2件が掲載・報告されています。

記念物：静岡県教育委員会 昭和56年(1981年)『静岡県の中世城館跡』

・本庄山砦ほか袋井市10件、浅羽町2件が掲載・報告されています。

記念物：静岡県教育委員会 昭和58年(1983年)『遠江の横穴群』

・道ヶ谷横穴群・金山横穴群・地藏ヶ谷横穴群が掲載・報告されています。

有形文化財：静岡県教育委員会 平成14年(2002年)『静岡県の近代化遺産』

・可睡斎護国塔・旧澤野医院が掲載・報告されています。

有形文化財：静岡県教育委員会 平成14年(2002年)『静岡県の近代和風建築』

・天理教山名大教会旧神殿・旧教祖殿、可睡斎瑞龍閣が掲載・報告されています。

民俗文化財：静岡県教育委員会 平成9年(1997年)『静岡県の民俗芸能』

・富士浅間宮の田遊びが掲載・報告されています。

民俗文化財：静岡県教育委員会 平成12年(2000年)『静岡県の祭り・行事』

・朝長公御祭礼ほか袋井市17件、浅羽町7件が掲載・報告されています。

記念物：静岡県教育委員会 平成元年(1989年)『静岡県の窯業遺跡』

・衛門坂古窯ほか掲載・報告されています。

記念物：静岡県教育委員会 平成10年(1989年)『静岡県の重要遺跡』

・坂尻遺跡、高尾向山遺跡が掲載・報告されています。

記念物：静岡県教育委員会 平成13年(2001年)『静岡県の前方後円墳』

・貫名地B2号墳ほか掲載・報告されています。

記念物：静岡県教育委員会 平成15年(2003年)『静岡県の古代寺院・官衙遺跡』

・掛之上遺跡、新堀遺跡ほか掲載・報告されています。

記念物：静岡県教育委員会 平成6年(1994年)『静岡県歴史の道調査報告書 東海道』

・松並木や一里塚が掲載・報告されています。

記念物：静岡県教育委員会 昭和58年(1983年)『静岡県歴史の道調査報告書 秋葉道』

・常夜燈、道標、町石などが掲載・報告されています。

有形文化財：静岡県教育委員会 平成31年(2019年)『静岡県の中近世墓』

・北条氏重の墓塔などが掲載・報告されています。

(5) 埋蔵文化財

高度経済成長に伴い昭和40年代後半頃から大規模な開発事業が増加し、全国各地で大学教授などの研究者を招聘して、地元の研究者を加えた調査団による発掘調査が行われ、昭和50年代には文化財保護法が大幅に改正され、埋蔵文化財の取り扱いについて厳格化されました。

旧袋井市では、昭和60年(1985年)に、それまでの情報を整理して『袋井市遺跡地図・袋井市遺跡地名表』を発行しました。市内における周知の埋蔵文化財の登録件数は279件です。

昭和61年(1986年)には、静岡県教育委員会が県内の埋蔵文化財の詳細把握のための調査事業を実施し、それまでに確認されていた遺跡の数と範囲を再整理し、埋蔵文化財包蔵地(遺跡)の適切な取り扱いについて全県的に標準化するために、平成元年(1989年)に『静岡県文化財地図』を全面改訂しました。この事業のために新しく「静岡県埋蔵文化財包蔵地カード」と遺跡の範囲図を作成し、埋蔵文化財包蔵地の根拠資料としました。

現在は、開発に伴って実施している分布・試掘調査等で得られた知見を踏まえて随時情報を更新しています。その成果については、担当窓口(生涯学習課文化財担当係)で確認できるほか、静岡県庁HPの「静岡県総合基盤情報システム(静岡県GIS)文化財保護課埋蔵文化財(<https://www.gis.pref.shizuoka.jp/?mc=05&mp=401&z=14>)」でも閲覧することができます。

年度別埋蔵文化財包蔵地の取り扱い件数

年 度		平成 29	平成 30	令和元	令和 2
所在確認	窓 口 照 会	385	415	441	350
	照会文書 (FAX 等)	402	409	458	535
	合 計	787	824	899	885
試 掘 調 査		5	10	7	9
本発掘調査		0	0	2	2

2 文化財の把握調査の課題

前頁のとおり、平成17年の合併以前の市史・町史の編纂の過程をはじめ、県・市・民間それぞれにおいて、文化財の種別に沿った把握調査が実施されました。

一方、未指定の文化財の把握調査は立ち遅れており、特に個人所有の建物、絵画、彫刻、工芸品、古文書、歴史資料などについて把握が不十分です。

遺跡や考古資料、埋蔵文化財、名勝、天然記念物、伝承などに関しては一定の把握が来ています。

民俗文化財の中では、有形民俗文化財について、個人所有の民具など把握が不十分なものがあります。また、無形文化財では、地域に伝わる食に関する把握調査が十分に進んでいません。

文化的景観については、総合的な把握調査が十分なされていません。

調査の進捗状況

○:調査済み △:調査中 ×:未調査

種 別		市 内 全 域
有形文化財	建造物	△
	絵画	△
	彫刻	△
	工芸品	△
	書跡・典籍・古文書	△
	考古資料	○
	歴史資料	△
無形文化財		○
民俗文化財	有形民俗文化財	△
	無形民俗文化財	×
記 念 物	遺跡（史跡）	○
	名勝地（名勝）	○
	動物・植物・地質鉱物 （天然記念物）	○
文化的景観		×
伝統的建造物群		-
埋蔵文化財		○
文化財の保存技術		-
その他（伝承など）		○

3 文化財の把握調査実施の方針・措置

前項で触れたとおり、市史・町史の過程において実施した調査が十分でなく、未調査の項目について順次調査を進めていきます。

有形文化財については、特に個人所有の絵画・彫刻・工芸品・書跡・歴史資料について未調査や調査中であるため、把握調査を順次進めていきます。

無形民俗文化財については、地域に伝わる食に関する把握調査を進めていきます。

文化的景観については、地域の意見を聞きながら、まちづくりに活かす取組へとつなげていけるよう、総合的に把握調査を進めていきます。

施策	事業名	事業概要	財源	担い手				実施計画		
				市民	学校	市	専門家	前期 2年	中期 3年	後期 3年
1	建造物把握調査	概ね明治期行以降の個人所有の建物を中心に、把握調査を市民、専門家と協力しながら実施します。	市費	○		○	○		←→	
2	美術工芸品の把握調査	個人所有の絵画・彫刻・工芸品・書跡・歴史資料については調査が不十分であるため、市民、専門家と協力しながら把握調査を順次実施します。	市費	○		○	○		←→	
3	無形民俗文化財把握調査	市史編纂時に調査が十分でなかった未指定文化財について市民、専門家と協力しながら把握調査を実施します。	市費	○		○	○	←→		
4	文化的景観把握調査	まちづくりに活かすため、市民、学校、専門家の意見を聞きながら、把握調査を実施します。	市費	○	○	○	○		←→	
5	食の把握調査	生活文化に根ざした食や、古文書などの資料に残る食の記録を市民、学校、専門家と協力しながら把握調査を実施します。	市費	○	○	○	○		←→	

※表の担い手の項目の内、「市民」とは住民、文化財所有者、文化財における関係団体、自治会、まちづくり協議会を指し、「学校」は幼小中一貫教育における学園、高校、大学を指し、「市」とは主に袋井市の文化財担当及び関係部署を指し、「専門家」は研究機関、専門家、文化財保護審議会を示します。